

文部科学省認可通信教育



学習のポイント

2020 (令和2年度)

九州保健福祉大学大学院

保健科学研究科

博士 (前期) 課程

令和2年度レポート提出締切日

社会福祉学研究科 修士課程

- 第1回 令和2年 6月30日(火)
- 第2回 令和2年 9月30日(水)
- 第3回 令和2年11月30日(月)

保健科学研究科 博士(前期)課程

- 第1回 令和2年 6月30日(火)
- 第2回 令和2年 9月30日(水)
- 第3回 令和2年11月30日(月)

連合社会福祉学研究科 博士(後期)課程

- 第1回 令和2年 6月30日(火)
- 第2回 令和2年 9月30日(水)
- 第3回 令和2年11月30日(月)

保健科学研究科 博士(後期)課程

- 第1回 令和2年 6月30日(火)
- 第2回 令和2年 7月31日(金)
- 第3回 令和2年 9月30日(水)
- 第4回 令和2年10月30日(金)
- 第5回 令和2年11月30日(月)

レポート課題提出について

<お知らせ>

レポート提出締切日は、「完成されたレポート」の提出日です。

レポート内容に不安がある方は、科目担当教員より、少なくとも2週間前には、添削指導を受けてください。

<注意事項>

レポート提出は、締切日の17:00までに必ず提出してください。

レポート提出は、科目担当教員及び通信教育事務室の2箇所に提出してください。

※通信教育事務室レポート専用メールアドレス：kuhw-c-report@office.jei.ac.jp

※科目担当教員メールアドレス：(別紙参照)

保健科学研究科 博士（前期）課程・修士課程 2015年度 カリキュラム

（保健科学研究科 博士（前期）課程 2015年度入学生～2020年度入学生用）

	授業科目名	分野名	担当教員名	開講年次	単位	授業形態	必修選択	頁
共通必修科目	保健科学特論	医療衛生学	池脇 信直	1	4	T	◎	1
	保健科学特論	医療科学	丹下 佳洋	1	4	T	◎	2
	保健科学特論	健康科学	樋口 博之	1	4	T	◎	3
	保健科学特論	QOL学	福本 安甫	1	4	T	◎	4
	保健科学特論	心身障害学	松山 光生	1	4	T	◎	5
	保健科学特論	生命倫理学	三苦 純也	1	4	T	◎	6
	保健医療情報解析学特論	生体機能検査情報学	梅木 一美	1	4	T	◎	7
	保健医療情報解析学特論	検査統計解析学	清水 慶久	1	4	T	◎	8
	保健医療情報解析学特論	医療ネットワーク情報学	竹澤 真吾	1	4	T	◎	9
	保健医療情報解析学特論	安全情報管理学	戸畑 裕志	1	4	T	◎	10
	保健医療情報解析学特論	医療統計学	原 修一	1	4	T	◎	11
共通専門選択科目	発達保健学特論	遺伝学	園田 徹	1・2	4	T	○	12
	発達保健学特論	コミュニケーション発達学	倉内 紀子	1・2	4	T	○	13
	成人・老人保健学特論	臨床検査医学	清水 慶久	1・2	4	T	○	14
	成人・老人保健学特論	呼吸・循環機能老化学	吉武 重徳	1・2	4	T	○	15
	精神保健学特論		矢花 芙美子	1・2	4	T	○	16
	形態学特論	分子細胞生物・微細構造学	川野 純一	1・2	4	T	○	17
	形態学特論	器官形態・組織病理学	近藤 照義	1・2	4	T	○	18
	形態学特論	細胞制御生化学	西片 一朗	1・2	4	T	○	19
	形態学特論	分子病理学	宮本 朋幸	1・2	4	T	○	20
	形態学特論	分子遺伝学	三苦 純也	1・2	4	T	○	21
	生体機能学特論	臨床免疫学	池脇 信直	1・2	4	T	○	22
	生体機能学特論	感染症学	鬼塚 信	1・2	4	T	○	23
	生体機能学特論	感染病態・治療学	明石 敏	1・2	4	T	○	24
	生体機能学特論	再生医学	近藤 照義	1・2	4	T	○	25
	生体機能学特論	細胞治療学	三苦 純也	1・2	4	T	○	26
	生体機能学特論	薬理・病態生理学	山本 隆一	1・2	4	T	○	27
	分野別専門選択科目	保健医療技術学特論Ⅰ	小児発達学	内勢 美絵子	1・2	4	T	○
保健医療技術学特論Ⅰ		運動学	立石 修康	1・2	4	T	○	29
保健医療技術学特論Ⅰ		運動処方学	樋口 博之	1・2	4	T	○	30
保健医療技術学特論Ⅰ		作業療法学	福本 安甫	1・2	4	T	○	31
保健医療技術学特論Ⅱ		言語聴覚障害学	太田 栄次	1・2	4	T	○	32
保健医療技術学特論Ⅱ		聴覚機能学	倉内 紀子	1・2	4	T	○	33
保健医療技術学特論Ⅱ		摂食・嚥下機能学	中村 真理子	1・2	4	T	○	34
保健医療技術学特論Ⅱ		構音・高次脳機能学	原 修一	1・2	4	T	○	35
保健医療技術学特論Ⅲ		視能解剖学	川野 純一	1・2	4	T	○	36
保健医療技術学特論Ⅲ		視能学	沼田 公子	1・2	4	T	○	37
保健医療技術学特論Ⅳ		人工臓器学	丹下 佳洋	1・2	4	T	○	38
保健医療技術学特論Ⅳ		医療機器安全管理学	戸畑 裕志	1・2	4	T	○	39
保健医療技術学特論Ⅳ		生体計測学	清水 慶久	1・2	4	T	○	40
保健医療技術学特論Ⅳ		医用治療機器学	右田 平八	1・2	4	T	○	41
保健医療技術学特論Ⅳ		生体機能代行装置学	吉武 重徳	1・2	4	T	○	42
保健医療技術学特論Ⅳ		感染制御・治療学	渡辺 渡	1・2	4	T	○	43
保健医療技術学特論Ⅴ		細胞生理生化学	西片 一朗	1・2	4	T	○	44
保健医療技術学特論Ⅴ		分子細胞病理学	宮本 朋幸	1・2	4	T	○	45

演習科目	分野別専門選択科目	保健医療技術学演習Ⅰ	小児発達学	内勢 美絵子	1・2	4	T	○	46
		保健医療技術学演習Ⅰ	運動学	立石 修康	1・2	4	T	○	47
		保健医療技術学演習Ⅰ	運動処方学	樋口 博之	1・2	4	T	○	48
		保健医療技術学演習Ⅰ	作業療法学	福本 安甫	1・2	4	T	○	49
		保健医療技術学演習Ⅱ	言語聴覚障害学	太田 栄次	1・2	4	T	○	50
		保健医療技術学演習Ⅱ	聴覚機能学	倉内 紀子	1・2	4	T	○	51
		保健医療技術学演習Ⅱ	摂食・嚥下機能学	中村 真理子	1・2	4	T	○	52
		保健医療技術学演習Ⅱ	構音・高次脳機能学	原 修一	1・2	4	T	○	53
		保健医療技術学演習Ⅲ	視能解剖学	川野 純一	1・2	4	T	○	54
		保健医療技術学演習Ⅲ	視能学	沼田 公子	1・2	4	T	○	55
		保健医療技術学演習Ⅳ	人工臓器学	丹下 佳洋	1・2	4	T	○	56
		保健医療技術学演習Ⅳ	医療機器安全管理学	戸畑 裕志	1・2	4	T	○	57
		保健医療技術学演習Ⅳ	生体計測学	清水 慶久	1・2	4	T	○	58
		保健医療技術学演習Ⅳ	医用治療機器学	右田 平八	1・2	4	T	○	59
		保健医療技術学演習Ⅳ	生体機能代行装置学	吉武 重徳	1・2	4	T	○	60
		保健医療技術学演習Ⅳ	感染制御・治療学	渡辺 渡	1・2	4	T	○	61
		保健医療技術学演習Ⅴ	細胞生理生化学	西片 一朗	1・2	4	T	○	62
		保健医療技術学演習Ⅴ	分子細胞病理学	宮本 朋幸	1・2	4	T	○	63
		総合科目	保健科学特別研究		明石 敏	1～2	6	T S	◎
保健科学特別研究			池脇 信直	1～2	6	T S	◎	65	
保健科学特別研究			梅木 一美	1～2	6	T S	◎	66	
保健科学特別研究			鬼塚 信	1～2	6	T S	◎	67	
保健科学特別研究			川野 純一	1～2	6	T S	◎	68	
保健科学特別研究			倉内 紀子	1～2	6	T S	◎	69	
保健科学特別研究			近藤 照義	1～2	6	T S	◎	70	
保健科学特別研究			清水 慶久	1～2	6	T S	◎	71	
保健科学特別研究			園田 徹	1～2	6	T S	◎	72	
保健科学特別研究			竹澤 真吾	1～2	6	T S	◎	73	
保健科学特別研究			立石 修康	1～2	6	T S	◎	74	
保健科学特別研究			戸畑 裕志	1～2	6	T S	◎	75	
保健科学特別研究			中村 真理子	1～2	6	T S	◎	76	
保健科学特別研究			西片 一朗	1～2	6	T S	◎	77	
保健科学特別研究			沼田 公子	1～2	6	T S	◎	78	
保健科学特別研究			原 修一	1～2	6	T S	◎	79	
保健科学特別研究			樋口 博之	1～2	6	T S	◎	80	
保健科学特別研究			松山 光生	1～2	6	T S	◎	81	
保健科学特別研究			右田 平八	1～2	6	T S	◎	82	
保健科学特別研究			三苦 純也	1～2	6	T S	◎	83	
保健科学特別研究		宮本 朋幸	1～2	6	T S	◎	84		
保健科学特別研究		山本 隆一	1～2	6	T S	◎	85		
保健科学特別研究		吉武 重徳	1～2	6	T S	◎	86		
保健科学特別研究		渡辺 渡	1～2	6	T S	◎	87		

【修了要件】

特別研究を含む必修3科目14単位、共通専門選択2科目8単位以上、分野別専門選択2科目8単位以上、合計30単位以上を修得し、かつ必要な研究指導を受けた上、修士論文の審査及び最終試験に合格すること。

【授業形態】

T = 印刷授業科目

T S = 印刷授業と面接授業の複合科目

◎ = 必修授業科目

○ = 選択授業科目

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健科学特論（医療衛生学）	池脇 信直	4	T	必修

講義や研究の概要・一般目標（G10）

保健科学特論（医療衛生学分野）では、個人や人間集団の健康を維持・増進するための公衆衛生学、予防医学、健康科学の概念を学習する。具体的には、医療現場における特定集団の健康管理の意義、対人保健活動を通しての予防対策、ならびに医療経済に関する包括的な知識について学ぶ。また、本講義では予防医学における遺伝子検査、タンパク質機能検査、細胞機能検査に関わる内容についても学習する。さらに、予防医学の最新話題である水素医療についても考察する。

到達目標（SBOs）

1. 個人や人間集団の健康を維持・増進するための予防医学、健康科学の概念を理解できる。
2. 特定集団の健康管理の意義、対人保健活動、医療経済の概念を理解できる。
3. 予防医学における遺伝子検査の概念を理解できる。
4. 予防医学におけるタンパク質機能検査の概念を理解できる。
5. 予防医学における細胞機能検査の概念を理解できる。
6. 予防医学における水素医療を理解できる。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

医療衛生と予防医学

第2回レポート課題

「Healthy Living」を読んで内容をまとめる。

第3回レポート課題

予防医学と水素医療

テキスト

テキストは原則的にありませんので、下記の参考書を利用して下さい。

参考書・参考資料等

1. シンプル衛生公衆衛生学 2020 (南江堂)
2. 免疫と健康 (講談社ブルーバックス)
3. 生命科学と人間 (日本放送出版協会)
4. 生命科学の世界 (日本放送出版協会)
5. 遺伝子工学への招待 (南江堂)
6. 人類生態学 (東大出版会)
7. 遺伝医学への招待 (南江堂)
8. 水素吸入健康法 (幻冬舎)

学生に対する評価

レポート（3回）の合格ならびに科目修了試験で評価します。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健科学特論（医療科学）	丹下 佳洋	4	T	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

医療技術の高度化により世界的に先端医療が可能となった。また、研究倫理においては、ヒトに関連する研究はすべて研究機関等の倫理委員会の承認が求められている。現代医療において研究倫理によるある程度の規制が行われているが、すべての研究が施設のみによる管理ではなく、社会的に生命倫理が求められる。本科目では、生命倫理とともに最先端の医療技術について調査するとともに、今後の医療技術発展と倫理について客観的に評価・意見を持ち合わせることを目的とする。世界的に意見が求められる中、各種参考文献にて客観的に事象を調査するとともに持論を展開する技術をレポートにて記述できることを目的とする。

到達目標 (SBOs)

1. 医療と倫理について文献をもとに現状を調査し、客観的に評価することができる。
2. 調査した文献をもとに持論を展開できる。
3. 調査した課題テーマをもとに多方面からまとめあげることができる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

研究を遂行する上で必要な倫理規定について多方面から調査を行い、その規定に関する背景を考察し客観的にまとめよ。
レポートの最初のページに課題レポートのアブストラクトを英文 250 words 以内で作成すること。

第2回レポート課題

自身の研究テーマもしくはヒトを対象とした研究倫理委員会の承認について、遵守すべき内容を記述しなさい。また、自身の研究テーマに沿って倫理委員会への提出を想定し、申請書を作成せよ。
レポートの最初のページに課題レポートのアブストラクトを英文 250 words 以内で作成すること。

第3回レポート課題

ゲノム編集を例にとり文献調査を行い、この技術のこれまでの経緯、現状、将来についてレポートを作成し持論を展開しなさい。レポートの最初のページに課題レポートのアブストラクトを英文 250 words 以内で作成すること。

テキスト

参考書・参考資料等

学生に対する評価

3回のレポートに合格し、科目修了試験において評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健科学特論（健康科学）	樋口 博之	4	T	必修

講義や研究の概要・一般目標（G10）

保健科学を学ぶ学生として、生活習慣病と医療費の動向を把握する必要がある。単に、疾病の症状や診断基準を知識として覚えるだけでなく、生活習慣病の増加の社会的背景を考える必要がある。その上で、医療費の増加の原因と対策をさまざまな視点から論議しなければならない。

疾病の治療の一つとして運動療法があげられる。臨床分野で用いられる運動療法は機能回復を目的としているが、予防医学分野では健康維持・増進を目的としている。運動の種類、強度、頻度によって生体に与える効果は異なる。臨床分野での運動療法は医療費に含まれるが、地域保健事業として行われる健康・体力づくり事業は、医療費増加の抑制が期待されるものである。本講義では、現状を十分に把握し、理想的な保健医療サービスについて考える。

到達目標（SBOs）

- ・医療費の増大の要因を把握する。
- ・健康づくりに有効であると考えられている身体運動の生理的反応を理解する
- ・健康科学（予防医学）に関する海外の情報を把握する能力を高める

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

課題1：生活習慣病と医療費の動向
（キーワード：死因別死亡率、年齢、肺炎、健康増進法）

第2回レポート課題

課題2：身体運動に対する生理的反応
（キーワード：呼吸、循環、酸素消費、エネルギー代謝）

第3回レポート課題

課題3：指定された英語論文を全訳しなさい 図表の訳は不要です。
（英語論文は添付ファイルとして送信します）

テキスト

なし

参考書・参考資料等

（図書）
国民衛生の動向 2018/2019 年版、厚生統計協会
運動療法ガイド-正しい運動処方求めて-、井上一・武藤芳照、日本醫事新報社
循環-運動時の酸素運搬システム-、齊藤満・加賀谷淳子、ナッパ社
スポーツ生理学、森谷敏夫・根本勇、朝倉書店
（雑誌）
総合リハビリテーション、医学書院
厚生指針、厚生統計協会

学生に対する評価

3回のレポート課題の提出により、科目修了試験を行い、総合評価とする。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健科学特論 (QOL学)	福本 安甫	4	T	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

保健科学領域における研究対象としては、何らかの社会的・個人的問題を抱えながら生活している「人」であることが多い。そこで「人」をどのようにとらえるかが重要な研究視点となることから、ここでは生活機能体として構造化することで、生活と関連させて理解することをテーマとして考えることにする。この科目では、「人と生活」の関連を「生活機能体と QOL (Quality of Life) の構造化・具体化する」ことを修得し、科学的研究マインドの育成に役立つ。

到達目標 (SBOs)

- 1) 「人」を生活機能体として構造的な説明ができる。
- 2) QOLにおける「生活の質」について説明できる。
- 3) 生活の意義と QOL の関連を説明できる。
- 4) 外国文献を通して、QOL について外国と日本の違いを説明できる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

生活機能体として構造化する意義を論述しなさい。
 =人を構造化する意義について「生活」と関連させて考察すること=

第2回レポート課題

QOL を科学的にとらえる視点について論述しなさい。
 =QOL を具体化するためにはどうすれば良いか、またその評価とは何か (何を・どのように) について考察すること=

第3回レポート課題

QOL に関する英語論文を1編選択し、その要旨とともに自分の考えを論述しなさい。
 =英語論文に馴染むとともに外国の考え方を修得し、自分の知り得た知識等と比較しながら、自己の考えを述べるようにすること=

テキスト

QOL 評価学—測定、解析、解釈のすべて 福原俊一他訳 中山書店 2005

参考書・参考資料等

障害者福祉研究会編：WHO 国際生活機能分類，中央法規 2002

学生に対する評価

レポート3回合格し，科目修了試験において評価する

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健科学特論（心身障害学）	松山 光生	4	T	必修

講義や研究の概要・一般目標（G10）

心身障害学とは障害科学であり、学際的な学問である。リハビリテーションの分野でも、このような発想が求められ、リハビリテーション連携科学が発展しつつある。リハビリテーション連携科学は、サービス利用者の立場に立ち、リハビリテーションの各分野間、各種専門職種間、関係機関の連携を確立、促進するための理論や実践をまとめる科学である。そのひとつの鍵が、当事者性である。

本特論では、リハビリテーションにおける職種間の連携を科学的に検討し、その研究的課題を把握することを目的とする。

到達目標（SBOs）

1. リハビリテーションの諸分野とその連携のあり方について説明できる。
2. リハビリテーション連携に関する研究課題が見つげられる。
3. 海外の研究が紹介できる。
4. 学術論文から重要な情報が読み取れる。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

（テキストのまとめだけでなく、自らの経験や考えを網羅すること）

リハビリテーションの諸分野について概説した上で、その連携の意義と課題についてまとめなさい。
課題作成のポイント:①リハビリテーションの5つの分野、②連携の概念、③連携実現のための条件整備

第2回レポート課題

（データのある実証的研究を選び、意識を心掛けること、選んだ論文のPDFデータを添付すること）

リハビリテーション連携に関する論文をまとめ、その研究的意義を自らで批評しなさい。
課題作成のポイント:①アブストラクトの和訳、②メインデータの解説、③先行研究との比較やその論文の位置づけ、④その論文の独自性と研究的課題の自らのコメント

第3回レポート課題

（画像を添付すること）

自分の職場やフィールドについて、自分を含めて、①今のスタッフや当事者の連携のあり方、②理想のスタッフや当事者の連携のあり方の両者を、物（積み木、ブロック、文房具など）を用いて抽象的に表現し、画像2枚に撮影しなさい。その後、両者を文章で解説し、比較しなさい。

テキスト

1. リハビリテーション連携論—ユニバーサル社会実現への理論と実践 三輪出版 澤村 誠志 他

参考書・参考資料等

1. 江藤文夫 編著 よくわかるリハビリテーション ミネルヴァ書房 2005年
2. 津田 彰 他編著 医療行動科学のためのカレント・トピックス 北大路書房 2002年

学生に対する評価

3回のレポートと、科目修了試験で評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健科学特論（生命倫理学）	三苦 純也	4	T	必修

講義や研究の概要・一般目標（G10）

現代の医学、薬学、保健科学、あるいは分子細胞生物学の研究において、ヒトや動物を用いた研究は避けては通れない。すなわち、「生命倫理学」は様々な学問を遂行する上での礎である。この科目では、諸学問においての生命倫理的な問題を抽出し、それを理解し、倫理観をもってこれからの大学院での研究を遂行していくことができるようになることを目標とする。

到達目標（SBOs）

- 1) 生命倫理の諸問題や最近の話題について挙げるができる。
- 2) 世界的な生命倫理の流れを知り、説明できる。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

生命倫理の諸問題を抽出し、それについてまとめる。

第2回レポート課題

生命倫理に関する最近のトピックを探し、それについてまとめる。

第3回レポート課題

生命倫理に関する英文を読み、わかりやすい日本語にまとめる。

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

随時紹介する。

学生に対する評価

3回のレポートに合格し、科目修了試験において評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健医療情報解析学特論（生体機能検査情報学）	梅木 一美	4	T	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

生体機能検査に関わる領域は広範囲におよび、かつ情報量も膨大である。保健医療の分野でも、これらの情報から必要とする情報を的確に収集し、最も効果的な方法で解析できるスキルは必須である。本特論ではデータベースおよびバイオバンクからの情報収集の方法および得られた情報を活用し解析する基本的な方法を習得する。

到達目標 (SBOs)

英語論文を的確に理解するスキルを習得する。バイオリソースの検索およびバイオマテリアルの入手方法、遺伝子関連データベースの検索および遺伝子解析ソフトウェアの活用法を習得する。また、学会発表や論文発表における効率的なデータの提示方法を習得する。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

- (1) 英語論文の専門用語を的確に理解する。
- (2) 研究論文に適した英語の活用ができる。

第2回レポート課題

- (1) バイオリソースから研究に必要な情報を検索する。
- (2) 遺伝子関連データベースから研究に必要な遺伝子情報を収集する。
- (3) 遺伝子解析ソフトウェアを用いて核酸情報の解析を行う。

第3回レポート課題

- (1) 研究データを学会発表用のスライド原稿にまとめる。
- (2) 研究データを論文発表用の図表にまとめる。

テキスト

テキストは原則的にありませんので下記の参考書を利用してください。

参考書・参考資料等

データベース・ウェブツール (実験医学 増刊 Vol.32 No.20)
 ヒト疾患のデータベースとバイオバンク (実験医学 増刊 Vol.35 No.17)

学生に対する評価

3回のレポートに合格し、科目修了試験において評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健医療情報解析学特論（検査統計解析学）	清水 慶久	4	T	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

情報社会の急速な進展により、科学的に得られたデータをはじめとする「情報」を正しく分析し、有効に活用するためには統計処理は必須である。統計処理を正しく理解するには、どのようなプロセスで進められていくのかについて、様々な視点から分析することが重要である。特に、統計学の理論は確率論に基づいており、標本抽出に伴うデータの確率論的な揺らぎの特性の理解が求められる。よって、本講座では、まず統計理論を学習し、実際のデータ処理を行うことにより、より理解を深めるものとする。

到達目標 (SBOs)

- 1) 介入研究と調査研究で、統計処理法が大きく異なる理由を理解するとともに、調査研究における「偏り」の原因を理解し対処できる。
- 2) データの視覚化ツールを活用し、データを見通せる能力を有し、データの絞り込み・層別化・変換を的確に行え、最適な統計解析に向け準備できる。
- 3) 説明変数の取捨選択を、研究目的に応じて適正に行うことができる。
- 4) ROC 曲線による検査の診断的有用性の評価法とその限界が判断できる。
- 5) 多変量解析における過剰適合の現象を理解し、分析結果の再現性を評価できる。
- 6) 統計処理方法を的確に記述でき、さらに結果を示す図表を適切に示せ、その解釈を明確に記述できる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

統計学的仮説検定の目的と理論について解説せよ。

第2回レポート課題

判断分析（感度・特異度・ROC 解析）について解説せよ。

※ 与えられた演習データについて、各自、分析ならびに解析を行い報告のこと。

第3回レポート課題

標本の分布型とその検定法について解説せよ。

※ 与えられた演習データについて、各自、分析ならびに解析を行い報告のこと。

テキスト

バイオサイエンスの統計学, 市原清志 著, 南江堂, ISBN-10: 4524220364, ISBN-13: 978-4524220366

※ 適時、論文指定を行う。

参考書・参考資料等

新版統計学の基礎 第2版, 市原清志 他著, 日本教育研究センター, ISBN-10: 489026180X, ISBN-13: 978-4890261802

学生に対する評価

レポート提出において3回すべて合格し、さらに科目修了試験で総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健医療情報解析学特論（医療ネットワーク情報学）	竹澤 真吾	4	T	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

医療ネットワーク情報学分野についての学習を行う。

医療における情報通信は、当初独自のシステムが構築されていたが、現在はインターネット（WAN）やLANを活用したシステムが中心である。ここでは、医療機器を制御するためのネットワークシステムを実際に使用されている例を挙げて学習する。

到達目標 (SBOs)

1. LANおよびインターネットの仕組みについて学び、情報ネットワークの基本を理解する。
 2. 電子カルテなどの医療における電子情報を整理、理解する。
 3. 医療機器と院内LANの接続例、具体的な情報の扱いについて調査、理解する。
- の3ステップを踏みながら、医療における情報ネットワークの学習を行う。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

インターネットの生い立ちと現状の概要について調査すると共に、施設内で使用されているLANの方法、インターネットとLANの接続、情報のやり取りについて記述しなさい。ウイルス対策がどのようになされているのかは、必ず記載すること。

第2回レポート課題

電子カルテ、電子画像処理システムなど、医療における電子情報の種類とその内容、情報のフォーマットについて調査、記述しなさい。

第3回レポート課題

身近にある医療機器を例にとり、LANとの接続方法、活用方法について記述しなさい。現在ネット接続が行われていない機器であって、LAN接続によって利便性が向上すると思われるものを取り上げて良い。

テキスト

とくに指定しない。

参考書・参考資料等

とくに指定しない。

学生に対する評価

レポート3回の合格並びに科目修了試験において評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健医療情報解析学特論（安全情報管理学）	戸畑 裕志	4	T	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

医療機器を安全に使用する体制として、医療機器の不具合情報を収集し、医療機器の開発者および使用者が情報を共有することが重要である。これらの達成するための機関として代表的な組織は下記のごとくである。医療機器の安全対策の基本学習として、この機関に報告される医療機器の不具合情報を分析し、医療職の立場で医療事故防止について検討し防止案を討議する。

1. 独立行政法人：医薬品医療機器総合機構
2. 財団法人：医療機器センター
3. 財団法人：日本医療機能評価機構

到達目標 (SBOs)

1. 医療機器の不具合情報の検索ができる。
2. 各機関の医療機器に関する情報の特徴を説明できる。
3. 医療機器の事故の特徴を説明できる。
4. 医療事故の事故原因の分析ができる。
5. 医療事故の対策を提言できる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

上記機関に報告が上がっている医療機器の不具合情報（循環系医療機器の不具合）を検索して事故原因を検討し医療事故防止策を各々の立場で立案する。

第2回レポート課題

上記機関に報告が上がっている医療機器の不具合情報（呼吸器系医療機器）の不具合を検索して事故原因を検討し医療事故防止策を各々の立場で立案する。

第3回レポート課題

上記機関に報告が上がっている医療機器の不具合情報（代謝系医療機器の不具合）を検索して事故原因を検討し医療事故防止策を各々の立場で立案する。

テキスト

参考書・参考資料等

一般社団法人 日本医療機器学会編：医療機器情報担当者（MDIC）テキスト（医療概論、臨床医学、臨床工学、医療情報）

学生に対する評価

3回のレポートに合格し、科目修了試験において評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健医療情報解析学特論（医療統計学）	原 修一	4	T	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

研究デザインの段階から、先行文献を多く収集しつつ、測定しようとする母集団と標本(サンプル) を考えること、データの定義・基準・種類を考えること、および、データの取得方法とその内容・環境条件、データ入力の際のコーディングを考えることが重要である。本講座では、院生自らの研究デザインの質の向上を図るための文献収集方法や、統計学的解析法の基礎を学ぶ。

到達目標 (SBOs)

1. 院生自らの研究デザインの質の向上を図るための文献収集と、その紹介ができる。
2. データを基礎的な統計学的解析法を用いて解析できる。
3. 自己の研究デザインに統計学的手法を取り入れ、そのデザインを説明できる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

各自の研究テーマに関連した英文論文を読み、その英文論文の概要と使用されている統計学的手法について紹介し、当該論文内での統計学的手法利用の意義と効果について論じなさい。

第2回レポート課題

設定課題 (E-mail にて送付予定) について、最も適した統計学的手法を選択し、各自で用意した統計解析ソフトを用いて解析し、考察しなさい。

第3回レポート課題

自己の研究課題について、研究デザインやデータ解析のための統計学的手法とそれを選択した理由、現在までの解析の状況について、まとめなさい。

テキスト

指定はありませんが、解析用の統計用ソフトを各自用意してください。

参考書・参考資料等

対馬栄輝 (著) : 医療系研究論文の読み方・まとめ方. 東京図書.
 石井秀宗 : 統計分析のここが知りたい 保健・看護・心理・教育系研究のまとめ方. 文光堂.
 福井次矢(編) : 臨床研究マスターブック. 医学書院.

学生に対する評価

3回のレポート内容および科目修了試験にて評価します。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
発達保健学特論（遺伝学）	園田 徹	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標（G10）

ヒトゲノム研究が進んで、ヒトゲノム構造が決定され、ポストゲノムの時代といわれます。しかし、基礎となる疾患遺伝子の同定の出発点は臨床遺伝学です。先天異常の一般発生頻度は100人に2～3人と少なく、しかも遺伝性疾患だけでもMcKusickのカatalogによりますと10,000種類以上と種類が多いのが特徴です。本講義によって、先天異常のとらえかた、診断、治療などについて理解します。

到達目標（SBOs）

本講義によって先天異常（染色体異常、単一遺伝子病、奇形症候群）の概要（代表的な症候群や成因）や、遺伝相談を含めた先天異常の診断と治療について説明できるようになる。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

染色体異常、単一遺伝子病、奇形症候群を整理する。

第2回レポート課題

指定論文（英文テキストの和訳、後ほど配布）

第3回レポート課題

先天異常の診断と治療（含む遺伝相談）を整理する。

テキスト

特にありません。

参考書・参考資料等

- ・コアカリ準拠 臨床遺伝学テキストノート・日本人類遺伝学会 編・診断と治療社・2018
- ・人類遺伝学ノート・徳永勝士 編・南山堂・2007
- ・遺伝医学への招待（改訂第5版）・新川詔夫、太田亨・南江堂・2015
- ・周産期遺伝カウンセリングマニュアル・関沢明彦、佐村修、四元淳子 編・中外医学社・2015
- ・新先天奇形症候群アトラス（改訂第2版）・梶井 正 ほか・南江堂・2015
- ・一目でわかる臨床遺伝学（第2版）・古関明彦 監訳・メディカル・サイエンス・インターナショナル・2014
- ・トンプソン&トンプソン遺伝医学 第2版・福岡義光 監訳・メディカル・サイエンス・インターナショナル・2017

学生に対する評価

3回のレポートに合格し、科目修了試験において評価します。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
発達保健学特論（コミュニケーション発達学）	倉内 紀子	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

言語・コミュニケーション能力の発達について専門的な知識を修得することがねらいである。
コミュニケーション、言語、スピーチの定義について理解した上で、0歳から3歳までのコミュニケーションスキルの発達と診断について学習する。これらの知識を踏まえて、コミュニケーションに困難を抱えた子どもの家族支援のあり方について考察する。

到達目標 (SBOs)

1. コミュニケーション、言語、スピーチの定義について説明できる。
2. 0歳から1歳までのコミュニケーションスキルの発達と診断について説明できる。
3. 1歳から2歳までのコミュニケーションスキルの発達と診断について説明できる。
4. 2歳から3歳までのコミュニケーションスキルの発達と診断について説明できる。
5. コミュニケーションに困難を抱えた子どもの家族支援と専門家の役割について説明できる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

テキストを参考に、コミュニケーション、言語、スピーチの用語を整理した上で、0歳から1歳までのコミュニケーションスキルの発達と診断について論述してください。

第2回レポート課題

テキストを参考に、1歳から2歳までのコミュニケーションスキルの発達と診断について論述してください。また、第1回・第2回レポート課題に関連した英語論文1編を選択し抄訳を提出してください。選択した英語論文を郵送または添付してください。

第3回レポート課題

テキストを参考に、2歳から3歳までのコミュニケーションスキルの発達と診断について論述してください。また、コミュニケーションに困難を抱えた子どもの家族支援について考察を加えてください。

テキスト

B. バックレイ著：コミュニケーションスキルの発達と診断。北大路書房，2004年，ISBN978-4-7628-2363-3，3672円（税込）

参考書・参考資料等

適宜、紹介する。

学生に対する評価

レポート課題（3回）合格後、科目修了試験において評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
成人・老人保健学特論（臨床検査医学）	清水 慶久	4	T	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

今日、先進国、開発途上国を問わず多くの国では、国民の平均年齢の上昇がもたらす経済的・社会的影響が問題となってきた。すなわち、労働力の高齢化は、国家の生産性の低下、事故の増加、不健康に起因した労働時間の大幅な損失に繋がることが懸念されている。

本講座では、これらの懸念に対して、その真意を確かめ、高齢化に伴い起こる諸問題が、適当な運動やライフスタイルへの介入プログラムによって、改善できるかを科学的に分析し、医療や施設ケアに貢献できる施策を提言できる能力を培うことを目的とする。

到達目標 (SBOs)

- 1) 高齢者を定義し、生物学的年齢と寿命の「個体間における差」を理解し、さらに、性別・遺伝的要素・経済的影響および身体活動がどの程度影響するのかを分析できる。
- 2) 老化の分子、微細構造および細胞レベルでの変化とともに、老化のプロセス *metaphor* を考慮し、老化に関する最新の理論を身に着ける。
- 3) 運動に対する反応に影響される変数に着目し、主な生理システムの加齢に伴う変化を説明できる。
- 4) 高齢者における定期的な身体活動と健康との相互作用、すなわち、心呼吸器系疾患・筋骨格系疾患・代謝障害などとの関連を総合的に分析できる。
- 5) 高齢化社会の経済的および社会的な問題に自らアプローチでき、解決策を模索することができる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

老化について、人口学的および生物学的側面から解説せよ。

第2回レポート課題

高齢期の身体活動と健康について、臨床検査医学的見地から解説せよ。

第3回レポート課題

高齢化社会の経済的・社会的影響について解説せよ。

テキスト

Aging, Physical Activity, and Health, Roy J. Shephard, Human Kinetics, ISBN-10: 0873228898, ISBN-13: 978-0873228893

参考書・参考資料等

検査診断実践マニュアル, 市原清志 著, 日本教育研究センター, ISBN-10: 4890261575, ISBN-13: 978-4890261574

※ 適時、論文指定を行う。

学生に対する評価

レポート提出において3回すべて合格し、さらに科目修了試験で総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
成人・老人保健学特論（呼吸・循環機能老化学）	吉武 重徳	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

呼吸・循環機能老化学分野において。

加齢に伴う主要臓器（循環器、呼吸器、代謝内分泌臓器）の障害をここでは取りあつかう。加齢に従い、各種の臓器機能は低下していくが、その過程が、急性、亜急性そして、多くは慢性といった経過をたどる。その中で、代償的機転が作用して維持していくこともある。その変化は徐々に認められることも多く次の診断、次の治療を必要とするのかを考えることが、個人、家族、社会、医療経済を含め重要となってくることを理解し、認識できるようにする。

到達目標 (SBOs)

加齢に伴う、個々の臓器障害が生じていく段階で、個人、家族、社会、医療経済にあたえるインパクトを学ぶ。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

指定の英文論文を、抄読し加齢に伴う、臓器機能の変化についてまとめ、検討した結果を提出

第2回レポート課題

ひとつの主要臓器が、加齢に伴うことで個人、家族、社会、医療経済にあたえるインパクトについて、英文論文を参考に検討した結果を提出。

第3回レポート課題

加齢による、リンクした主要臓器障害が、個人、家族、社会、医療経済にあたえるインパクトについて、英文論文を参考に検討した結果を提出。

テキスト

テキストは原則的にありません。参考文献を必要に応じて指示します。

参考書・参考資料等

参考文献を必要に応じて指示します。

学生に対する評価

3回のレポートに合格し、科目修了試験において評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
精神保健学特論	矢花 芙美子	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

精神症状の正確な把握は治療・リハビリテーション・介護を行う上で極めて重要なことである。そこで、以下の課題を行う。

1. 医師同様に各立場なりの（例えば、OT的）診断が十分にできるようにする。
2. 診断と治療は切り離して考えるのではなく、一体のものという理解を十分できるようにする。
3. 精神科医が病態をどのように診断し、どう治療しているか、についての理解を深める。
4. 治療を十分に効果的なものにする為に、治療に加わるスタッフ（家族も含む）は全員が十分協力的、協調的であることが必要である。どのようにすれば協力的、協調的にしてゆけるかを学ぶ。
5. 治療者としての技術を向上させる為に、治療者自身の自己理解を深めてゆくことが必要である。自分自身の自己理解を深めてゆけるようにする。

到達目標 (SBOs)

精神障害者のQOLを高める為にも、治療を効果的にする上でも、限界という言葉を押しつけることなく、絶えず治療技術の向上と援助技術の向上に向けて努力し続ける人材育成を目指す。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

- 「追捕 精神科参断面接のコツ」1～3章を読み、まとめ、意見・感想をつけ提出。
「追捕 精神科参断面接のコツ」4～6章を読み、まとめ、意見・感想をつけ提出。
「追捕 精神科参断面接のコツ」7～9章を読み、まとめ、意見・感想をつけ提出。

第2回レポート課題

- 「追捕 精神科参断面接のコツ」10～13章を読み、まとめ、意見・感想をつけ提出。
「Becoming a Therapist-What do I say, and why?」1～173ページを訳し、まとめ、意見・感想をつけ提出

第3回レポート課題

- 「改訂 精神科養生のコツ」1～4章を読み、まとめ、意見・感想をつけ提出。
「改訂 精神科養生のコツ」5～8章を読み、まとめ、意見・感想をつけ提出。
「改訂 精神科養生のコツ」9～12章を読み、まとめ、意見・感想をつけ提出。

テキスト

1. 追捕 精神科参断面接のコツ 神田橋條治著 岩崎学術出版
2. Becoming a Therapist-What do I say, and why?. Suzanne Bender & Edward Messner. paperback, The Guilford Press, 2004. (課題は1～173ページ)
3. 改訂 精神科養生のコツ 神田橋條治著 岩崎学術出版

参考書・参考資料等

小精神医学書	加藤信勝著	金芳堂
テレ精神医学	飯田 眞 市川 潤 大橋正和監訳	西村書店
看護のための精神医学	中井久夫 山口直彦著	医学書院

学生に対する評価

レポート3回合格し、科目修了試験において評価。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
形態学特論 (分子細胞生物・微細構造学)	川野 純一	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

組織学的な手法は、組織や細胞の構造と機能を可視化する技術である。ポストゲノム時代を迎え、この手法の医学生物学領域における重要性は、ますます大きくなっている。本講では、種々の組織学研究法を理解すること、またそれらの画像を読み取る力を養うことをめざす。具体的には、まず一般的な組織学についての英文文献を読み、組織学研究法の概要を学ぶ。次に、それぞれの専門領域に関連する組織についての英文文献を読んで、理解を深める。

到達目標 (SBOs)

組織学研究法の概要を説明できる。
それぞれの専門分野の文献で使われる組織写真について概要を説明できる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

組織学研究法に関する英文文献を読み、それぞれの組織学研究法についてまとめる。

第2回レポート課題

専門領域に関連する特定の組織に関連する組織学の英文文献を読んで、まとめる。

第3回レポート課題

専門領域に関連する特定の組織に関連する組織学の英文文献を読んで、まとめる。

テキスト

随時指定される英文文献

参考書・参考資料等

藤田尚男、藤田恒男著 標準組織学 総論、各論 医学書院

学生に対する評価

レポートと、科目修了試験で評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
形態学特論（器官形態・組織病理学）	近藤 照義	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

保健科学の分野において、人体の正常な構造と機能を把握することは、ヒトの健康を守ることと関連付けて重要である。本科目では、人体の正常な構造と機能を理解し、さらに、正常な構造・機能と主要な疾患の病態生理との関連性を理解する。

到達目標 (SBOs)

1. 主要な器官系の肉眼解剖学的・組織学的構造を説明できる。
2. 主要な器官系の機能について説明できる。
3. 主要な疾患の病態生理について説明できる。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

各自の関心ある器官系において、器官系の肉眼解剖学的・組織学的構造、主な疾患の病態生理についてまとめる。

第2回レポート課題

人体の構造と機能に関する英文資料を配布するので、その内容を理解しレポートを作成する。

第3回レポート課題

各自の関心ある器官系において、器官系の肉眼解剖学的・組織学的構造、主な疾患の病態生理についてまとめる。

テキスト

カラー人体解剖学 構造と機能：ミクロからマクロまで F.H. マティニーニ 他 著 井上貴央 監訳 西村書店 発行年 2003年4月25日

参考書・参考資料等

随時紹介する。

学生に対する評価

3回のレポートに合格し、科目修了試験において評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
形態学特論（細胞制御生化学）	西片 一郎	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

生物は、外界と垣根をなす、細胞という単位をもとに生きている。特に、ヒトをはじめ、多細胞生物では、多様な細胞集団を構築しながらも、統率のとれた動的平衡を維持している。これらは、全て、個々の細胞での情報伝達に基づく制御にはかならない。外界からの刺激（情報）は、化学物質に置き換えられ、受容体との相互作用を介し、細胞内情報伝達系を刺激、酵素の活性化や遺伝子発現を促進、細胞自身による外界への応答を誘導する。本講義では、この情報伝達に焦点をあて、生命活動の根幹に触れる諸問題について、学習する。

到達目標 (SBOs)

- (1) 「細胞とは何か」について、構造的特徴と機能的特徴を理解することにより、その存在意義を説明できる。
- (2) 「細胞内での情報伝達系はどうなっているのか」について、伝達方法の種類やそれぞれの機能について理解すると共に、これに起因する細胞～組織レベルでの生理応答にも言及して説明できる。
- (3) 「細胞間での情報伝達系はどうなっているのか」について、伝達方法の種類やそれぞれの機能について理解すると共に、これに起因する生体レベルでの生理応答にも言及して説明できる。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

「細胞とは何か」というテーマで、具体例を幾つか掲げ、構造的特徴と機能的特徴を述べ、その存在意義に関する持論を、科学的根拠に基づき、展開せよ。

第2回レポート課題

「細胞内での情報伝達系はどうなっているのか」というテーマで、伝達方法の種類やそれぞれの機能について述べ、これに起因する細胞～組織レベルでの生理応答にも言及した後、付加すべき持論を、科学的根拠に基づき、展開せよ。

第3回レポート課題

「細胞間での情報伝達系はどうなっているのか」というテーマで、伝達方法の種類やそれぞれの機能について述べ、これに起因する生体レベルでの生理応答にも言及した後、付加すべき持論を、科学的根拠に基づき、展開せよ。

テキスト

- (1) Molecular Biology of the Cell 6th Edition (6E) (英語) [ただし、改訂があれば、最新刊に変更]
- (2) Molecular Biology of the Cell 6E - The Problems Book (英語) [ただし、改訂があれば、最新刊に変更]

参考書・参考資料等

参考書・参考資料等について、特別な限定はない。
必要となれば、PDF ファイルもしくは紙媒体で、こちらから提供する。

学生に対する評価

3回のレポートに合格し、科目修了試験において評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
形態学特論 (分子病理学)	宮本 朋幸	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

本科目では人体の各臓器ががん化した場合の組織・細胞形態について理解する。同じ組織にできるがんでも組織型によって組織・細胞形態が異なることを理解する。さらに組織・細胞診検体を用いた個別化医療に役立つ検査についての英文文献を読み、形態学との関連性について理解を深める。

到達目標 (SBOs)

- 1) 正常臓器・組織の形態学的特徴について説明できる。
- 2) 各臓器に発生するがんの組織型の形態学的特徴について説明できる。
- 3) 特定のがんの組織型に対する分子標的治療の効果を予測するのに役立つ検査について説明できる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

興味のある臓器の正常組織・細胞所見をまとめる。

第2回レポート課題

興味のある臓器に原発するがんの複数の組織型について、組織・細胞所見をまとめる。

第3回レポート課題

分子標的薬の治療効果を予測する病理・細胞診検体を用いた検査に関する英語論文を全訳しその内容をまとめる。

テキスト

原則的にありません。

参考書・参考資料等

必要に応じて参考文献を指示します。

学生に対する評価

3回のレポートに合格し、科目修了試験において評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
形態学特論 (分子遺伝学)	三苦 純也	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

2003年にヒトゲノムが解読され、様々な病気についてその原因遺伝子の特定がされて、それが病気の治療にも生かされる時代になってきた。本講では、遺伝性疾患と原因遺伝子についての英語論文を検索し、内容を理解することを目指す。

到達目標 (SBOs)

- 1) 遺伝性疾患の病気に関する英語論文を検索できる。
- 2) 検索した論文を理解できる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

自分で検索した英語論文の概要と序論の部分をまとめる。

第2回レポート課題

自分で検索した英語論文の方法、結果及び考察の部分をまとめる。

第3回レポート課題

自分で検索した英語論文の全体像を掴み、簡潔にまとめる。

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

特に指定しない。

学生に対する評価

3回のレポートに合格し、科目修了試験において評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
生体機能学特論（臨床免疫学）	池脇 信直	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

免疫とは、自己と非自己（異物）を識別し非自己を排除する生体防御機構である。非自己は抗原と呼ばれ、微生物、花粉、癌細胞、他人の細胞や臓器など多くの種類がある。免疫はこれらの抗原を抗体や補体を中心とした液性免疫、および白血球を中心とした細胞性免疫によって排除し、生体の恒常性を維持している。

本講義では、加齢と免疫、ストレスと免疫、感染免疫、癌（腫瘍）免疫、アレルギー、免疫不全症、自己免疫疾患、移植免疫など、臨床免疫学に関わる免疫反応を例にあげ生体の防御機構について学習する。

到達目標 (SBOs)

1. 非自己である抗原の種類と特徴を理解できる。
2. 抗体や補体を中心とした液性免疫の概念を理解できる。
3. 白血球を中心とした細胞性免疫の概念を理解できる。
4. 免疫疾患の発症メカニズムを理解できる。
5. 臨床免疫に関わる具体的な事例ならびに最新治療法（水素医療を含む）を理解できる。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

免疫システムの概要と免疫疾患

第2回レポート課題

「Progress in Basic and Clinical Immunology」を読んで内容をまとめる。

第3回レポート課題

免疫疾患における水素治療（水素医療）の応用

テキスト

テキストは原則的にありませんので、下記の参考書を利用して下さい。

参考書・参考資料等

1. 標準免疫学 (医学書院)
2. 新版 臨床免疫学 (講談社)
3. 免疫学イラストレイテッド (南江堂)
4. シンプル免疫学 (南江堂)
5. からだと免疫のしくみ (日本実業出版社)
6. 免疫検査学 (医学書院)
7. Progress in Basic and Clinical Immunology (Plenum Publishing Corporation)
8. 水素吸入健康法 (幻冬舎)

学生に対する評価

レポート（3回）の合格ならびに科目修了試験で評価します。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
生体機能学特論（感染症学）	鬼塚 信	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

この科目は修士論文作成に必要な基礎知識を含むものであり、研究テーマおよび研究方法の具体化とその実践を通して、医療分野における研究者としての基本的態度を形成するため感染症分野における基礎的知識を修得する。様々な感染症の基礎知識を学習し、我が国あるいは世界規模で問題になりつつある感染症についての知識を修得する。

到達目標 (SBOs)

1. 様々な感染症に関する知識を得る。
2. 感染症に関する、予防法および治療法の知識を取得する。
3. 感染症に関する問題点を整理し、考察することができる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

テーマ例：癌と感染症について（各個人の興味があるところで）

1. 学生自らの感染症問題の明確化と、キーワードの選出、学習（研究）テーマ決定、
2. 決定したテーマに関する先行研究のレビュー
3. 決定したテーマにおける、目的、方法の決定、考察

第2回レポート課題

テーマ例：日本で増加している感染症について（各個人の興味があるところで）

1. 学生自らの感染症問題の明確化と、キーワードの選出、学習（研究）テーマ決定、
2. 決定したテーマに関する先行研究のレビュー
3. 決定したテーマにおける、目的、方法の決定、考察

第3回レポート課題

テーマ例：世界的に脅威となる感染症について（各個人の興味があるところで）

1. 学生自らの感染症問題の明確化と、キーワードの選出、学習（研究）テーマ決定、
2. 決定したテーマに関する先行研究のレビュー
3. 決定したテーマにおける、目的、方法の決定、考察

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

特に指定しない。

学生に対する評価

3回のレポート課題に合格し、科目修了試験において評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
生体機能学特論（感染病態・治療学）	明石 敏	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

感染症は各種の病原体による疾患である。そのなかで、細菌、真菌、ウイルスを原因とした呼吸器疾患に重点をおいて学修する。呼吸器感染症の各種の病原体を知り、その感染による病態（臨床）並びに病理学的特徴を学修する。さらに、それぞれの感染症の治療薬、それらの作用機序並びに耐性機序についても学修する。病原微生物を科学的に理解し、それを職場や日常生活の中で科学的な見地から活用できるようになることを目標とする。

到達目標 (SBOs)

1. 細菌を原因とする呼吸器感染症の病態、病理学的特徴とその治療薬の作用機序並びに薬剤耐性機序について説明できる。
2. 真菌を原因とする呼吸器感染症の病態、病理学的特徴とその治療薬の作用機序並びに薬剤耐性機序について説明できる。
3. ウイルスを原因とする呼吸器感染症の病態、病理学的特徴とその治療薬の作用機序並びに薬剤耐性機序について説明できる。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

肺を中心に、呼吸器系の正常な組織構造をまとめる。また、呼吸器感染症の原因となる細菌、真菌、ウイルスの各1つについて微生物学並びに病態（臨床）の特徴について記述する。

第2回レポート課題

第1回で取り上げた、病原体による呼吸器感染症の病理学的な特徴について記述する。

第3回レポート課題

第1回、2回で取り上げた、病原体に対する代表的な治療薬を2つとりあげ、その作用機序並びに薬剤耐性機序について記述する。なお、治療薬は作用機序の異なる薬剤とする。

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

特に指定しない。
必要に応じて紹介する。

学生に対する評価

3回のレポートに合格し、科目修了試験において評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
生体機能学特論（再生医療学）	近藤 照義	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

近年の幹細胞研究の飛躍的な進歩に伴い、幹細胞を用いた組織及び臓器再生の可能性が期待され、皮膚や骨などでは実用化されつつある。本講義では構造の複雑さから他の臓器に比べて再生が困難と考えられている腎臓において、オルガノイド、胚盤胞補完法、胎生臓器ニッチ法が腎臓再生へいかに寄与できるのかを理解する。

到達目標 (SBOs)

- 1) 腎臓の構造を説明できる。
- 2) 幹細胞の定義について説明できる。
- 3) 腎再生における腎オルガノイドの重要性について説明できる。
- 4) 腎再生における胚盤胞補完法と胎生臓器ニッチ法の重要性について説明できる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

腎オルガノイドを用いた腎臓の再生について調べる。

第2回レポート課題

腎臓の再生に関する英文資料を配布するので、その内容を理解しレポートを作成する。

第3回レポート課題

胚盤胞補完法と胎生臓器ニッチ法の手法と腎臓再生への応用について調べる。

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

随時紹介する。

学生に対する評価

3回のレポートに合格し、科目修了試験において評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
生体機能学特論（細胞治療学）	三苦 純也	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

細胞を用いた治療は既に造血肝細胞移植等で実際の医療現場に活用されている。また、iPS（人工多能性幹）細胞の発見・樹立により従来では行うことが事実上不可能であった疾患の治療に対しても細胞治療の適用範囲は広がるものと予想される。本講義ではこれまで医療現場で行われてきた細胞治療に端を発し、現在臨床応用が検討されている細胞治療や、その応用についても解説を加え、臨床応用への応用を念頭に置いた基礎研究についての理解を深めることを目標とする。

到達目標 (SBOs)

細胞治療の概念を理解する。
 現在の医療現場で行われている細胞治療について理解する。
 細胞治療に重要な成体幹細胞や ES 細胞、iPS 細胞などの幹細胞について理解する。
 幹細胞研究と臨床応用について理解する。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

現在の医療現場で行われている細胞治療についてまとめる。

第2回レポート課題

iPS 細胞を利用した細胞治療の方法について関連の英語論文を参照してまとめる。

第3回レポート課題

細胞治療の臨床応用について関連の英語論文を参照してまとめる。

テキスト

特に指定しない

参考書・参考資料等

必要に応じて指示する。

学生に対する評価

3回のレポートに合格し、科目修了試験において評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
生体機能学特論（薬理・病態生理学）	山本 隆一	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

< 講義概要 >

運動系、聴覚系、視覚系の多くの障害においては、神経系、内分泌系や免疫系の異常が関連しており、これらの病態生理・生化学および薬物療法を理解することは、保健科学領域における職能向上に大きく寄与する。生体機能学特論では、種々の疾病における薬物の有用性を病態生理・生化学に基づいて解析することにより、疾病と薬物療法についての知識を習得する。

< 一般目標 >

疾病と薬物療法についての理解を深めることにより、高度な理論構築ができることが目標である。

到達目標 (SBOs)

- 1) 学術論文の成り立ちを説明できる。
- 2) 適切なデータを収集できる。
- 3) 文献データベースを活用し情報を取捨選択できる。
- 4) 自ら収集したデータを基に、レポートを作成できる。
- 5) レポートの目的・意義を英語で表現できる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

到達目標 1) 2) 3) 4)

日頃から関心がある疾病について、調査することにより保健科学領域における仕事に有用と考えられる疾病の薬物療法についてレポートを作成する。 例) 糖尿病の薬物療法

第2回レポート課題

到達目標 1) 2) 3) 4)

日頃から関心がある疾病について、調査することにより保健科学領域における仕事に有用と考えられる疾病の薬物療法についてレポートを作成する。

第3回レポート課題

到達目標 5)

指定英語論文の日本語による要約

テキスト

なるほど統計学とおどろき Excel 統計処理 改訂第8版

参考書・参考資料等

随時紹介

学生に対する評価

レポート提出において3回合格し、さらに科目修了試験で総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健医療技術学特論Ⅰ（小児発達学）	内勢 美絵子	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標（G10）

【概要】近年、少子・高齢化が進む中、大人の労働の課題や貧困問題、子どもが伸び伸びと遊ぶ環境（時間・空間・人）の狭小化、食の問題などにより、子どもの発達にさまざまな影響が出ているといわれている。そこで本講義では、子どもが健やかに育つことを保障、補完していくために、子どもの初期発達のメカニズムと子育てや保育との関係について学習する。

【一般目標（G10）】子どもの発達における環境（人的・物理的）の影響、重要性について理解を深めることにより、根拠に基づいた発達援助をするための基礎をつくることができる。

到達目標（SBOs）

- 1) 脳の機能発達について説明できる。
- 2) 乳児期の身体運動について説明できる。
- 3) 乳児が世界（環境）を知ること、その中で生きることについて説明できる。
- 4) 保育環境における乳児について説明できる。
- 5) 生涯発達における幼少期の重要性について説明できる。
- 6) 発達におけるアタッチメントの重要性について説明できる。
- 7) アロペアレンティングと仲間関係の役割について説明できる。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

【SBOs】 1) ～ 4)

テキストの該当頁（191～223 頁）をまとめ、文献等を引用しながらヒトの初期発達と環境について論述する。

第2回レポート課題

【SBOs】 1) ～ 4)

ヒトの初期発達と環境に関する英語論文を一つ選択し、その内容を要約し意見を述べる（英語論文は添付ファイルとして提出するか、コピーを郵送する）。

第3回レポート課題

【SBOs】 5) ～ 7)

テキストの該当頁（224～250 頁）をまとめ、文献等を引用しながら子どもの社会性発達と子育て・保育の役割について論述する。

テキスト

秋田喜代美監修：あらゆる学問は保育につながる 発達保育実践政策学の挑戦。東京大学出版会，ISBN978-4-13-051333-3

参考書・参考資料等

滝川一廣：子どものための精神医学。医学書院，ISBN978-4-260-03037-3

愛甲修子：愛着障害は治りますか？。花風社，ISBN978-4-907725-98-3

日本発達心理学会編：脳の発達科学 発達科学ハンドブック 8。新曜社，ISBN978-4-788514447

乾俊郎：脳科学からみる子どもの心の育ち。ミネルヴァ書房，ISBN978-4-623067787

土田玲子、小西紀一監訳：感覚統合とその実践，協同医書出版社，ISBN978-4-763921142

佐々木正美：完 子どもへのまなざし，福音館書店，ISBN978-4-834026078

学生に対する評価

3回のレポート合格と科目修了試験において評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健医療技術学特論 I (運動学)	立石 修康	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

※概要

本講義は人体の運動器に関する学習である。身体障害分野のリハビリテーションの中でも、特に骨筋系疾患の運動療法には運動器に対する詳細で深い理解が必須となる。本講義では、学習者が指定テキストを軸として複数の参考文献をあたり、運動器に関するレポートを作成する。

※G10

学習者は、運動器の構造と運動についての理解を深めることができ、エビデンスに基づく運動器のリハビリテーションの基盤とする事ができる。

到達目標 (SBOs)

1. 学習者は上肢における骨と関節構造と運動の関係を理解し説明できる。
2. 学習者は下肢における骨と関節構造と運動の関係を理解し説明できる。
3. 個々の患者の骨筋系疾患のリハビリテーションにおける疾患評価とリハビリテーション実践について説明できる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

指定テキストの第2部(上肢)の第5章(肩複合体)から第8章(手)のなかから興味のある関節(章)をひとつ選択し、複数の参考文献をあたりながらまとめなさい。

第2回レポート課題

指定テキストの第4部(下肢)の第12章(股関節)から第14章(足関節と足部)のなかから興味のある関節(章)をひとつ選択し、複数の参考文献をあたりながらまとめなさい。

第3回レポート課題

骨筋系の運動学に関連する英語論文を任意に一つ選択し和訳しなさい。

テキスト

筋骨格系のキネシオロジー 原著第3版(原著/Donald A. Neumann, 監訳/有馬慶美・日高正巳, 医歯薬出版) ISBN978-4-263-26581-9. 税込13750円

参考書・参考資料等

- ・カパンジー機能解剖学 I 上肢 原著第6版 (A. I. Kapandji 著/塩田悦仁訳. 医歯薬出版)
- ・カパンジー機能解剖学 II 下肢 原著第6版 (A. I. Kapandji 著/塩田悦仁訳. 医歯薬出版)
- ・プロメテウス解剖学アトラス 解剖学総論/運動器系 (監訳: 坂井建雄. 医学書院)
- ・運動器の「なぜ?」がわかる臨床解剖学 (工藤慎太郎著/医学書院)
- ・関節機能解剖学に基づく整形外科運動療法ナビゲーション 上肢 (整形外科リハ研究会 編. メジカルビュー)
- ・関節機能解剖学に基づく整形外科運動療法ナビゲーション 下肢 (整形外科リハ研究会 編. メジカルビュー)
- ・KNOW THE BODY 筋・骨格の理解と触診のすべて (Dr.マスコリーノ著/日高正巳訳. 医歯薬出版)

学生に対する評価

3回のレポートに合格したうえで、科目終了試験において評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健医療技術学特論 I (運動処方学)	樋口 博之	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

本講義では、運動処方を中心に、理想的な保健医療サービスについて考える。

運動療法は疾病の治療法の一つであり、臨床分野で用いられる運動療法は機能回復を目的としている。一方、予防医学分野では健康維持・増進を目的としている。医療従事者として運動療法学を学ぶのは、医師と理学療法士が中心となる。しかし、看護師や作業療法士も内容を理解することが望ましいと思われる。臨床分野では、医師の診断・処方に基づき、理学療法士が患者に対して機能回復訓練を行うが、実際にその効果には個体差がみられる。運動療法を実施するにあたり、運動の種類、強度、頻度によって生体に与える効果は異なる。

近年、メタボリック・シンドロームに対する地域予防対策が注目され、また医療法 42 条施設 (疾病予防を目的とした運動型施設) も増えている。以上の社会的背景から、運動療法が生体に与える効果およびメカニズムを理解することを学習内容とする。

到達目標 (SBOs)

- ・運動処方の原則を理解する
- ・運動療法による効果について、メカニズムを理解する

授業計画 (レポートの課題)

第 1 回レポート課題

メタボリック・シンドローム (肥満、高血圧、糖尿病、高脂血症) に対する運動療法と期待される効果をまとめなさい

第 2 回レポート課題

運動が骨粗鬆症の予防に有効であるメカニズムをまとめなさい

第 3 回レポート課題

骨格筋 (Skeletal muscle) と運動 (Exercise) をキーワードとし、PubMed で検索し、興味のある英語論文を全訳しなさい

(英語論文は添付ファイルとして提出するか、コピーを郵送してください)

テキスト

なし

参考書・参考資料等

(図書)

運動療法ガイド-正しい運動処方を求めて-、井上一・武藤芳照、日本醫事新報社

スポーツ生理学、森谷敏夫・根本勇、朝倉書店

今日の処方 改訂 5 版、南江堂

運動処方の指針 (アメリカスポーツ医学会、南江堂)

学生に対する評価

3 回のレポート課題の提出により、科目修了試験を行い、総合評価とする

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健医療技術学特論 I (作業療法学)	福本 安甫	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

この科目は、保健科学領域における高齢者や障害者のリハビリテーション研究の視点づくりを目的して開講する。したがって、実証科学とも言われるリハビリテーションについてどのように論理性を作り上げていくか、実践活動を通して学んでいく機会にしたいと考える。

到達目標 (SBOs)

1. リハビリテーションの科学性について説明できる。
2. リハビリテーション研究を論理的に説明できる。
3. 英語論文に慣れるとともに、その内容を説明できる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

リハビリテーションの科学性におけるエビデンスとは何か論述しなさい。

(この課題は、リハビリテーションにおける課題解決に向けて、どのようにエビデンスを作ったらよいか考えてみるのがテーマです)

第2回レポート課題

リハビリテーション研究の論理性について自分の立場から考察しなさい。

(この課題は、教科書と自分の経験を比較しながら、科学性と論理性とは何かを考えるのがテーマです)

第3回レポート課題

リハビリテーションに関する英語論文を一つ選択し、その要約とともに科学性について論述しなさい。

(この課題は、英語論文に馴染むことに加え、研究における科学性について考えるのがテーマです)

テキスト

参考書・参考資料等

科学としてのリハビリテーション医学、上田敏著、医学書院、2001

リハビリテーションの思想 (第2版)、上田敏著、医学書院、2001

学生に対する評価

レポート3回の合格と科目修了試験で評価。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健医療技術学特論Ⅱ（言語聴覚障害学）	太田 栄次	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

多職種の協働による患者中心医療の実践において、患者ニーズに十分に応えるためには、専門知識のみならず、関連する知識の理解・習得が必要である。また、自己の技術や理論の発展、その科学的根拠を求めるには、専門とする知識や技術のみならず、関連する知識や技術を利用することも有益である。その結果、いま目の前で起こっている事への理解が進み、自らの専門性をより深化させることができる。この科目では、言語聴覚障害学、ならびにそれらに関連の深い領域（例えば、言語学、音声学など）における議論を通して、保健・医療・福祉に対する包括的理解を促すことを目的とする。

到達目標 (SBOs)

1. 言語聴覚障害学、ならびにそれらに関連の深い領域における国内外での課題を共有し、多角的に分析し、その問題解決に必要となる知識、理論及び技術を幅広く学習する。
2. 1の過程を経て、自らの専門領域への理解を更に深める。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

言語聴覚障害学、ならびにそれらに関連の深い領域に関する論文を読み、その内容をまとめる。

第2回レポート課題

言語聴覚障害学、ならびにそれらに関連の深い領域に関する論文を読み、その内容をまとめる。

第3回レポート課題

言語聴覚障害学、ならびにそれらに関連の深い領域における課題について理解した上で、自らの研究課題との関連について論ずる。

テキスト

随時指定される文献

参考書・参考資料等

随時指定される文献

学生に対する評価

3回のレポートの内容と、科目終了試験において評価します。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健医療技術学特論Ⅱ（聴覚機能学）	倉内 紀子	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

単独または発達障害に合併して生じる聴覚の問題について理解を深めることがねらいである。小児聴覚障害の症状・特徴、原因、評価・診断の基礎を学習した上で、聴覚の発達、新生児聴覚スクリーニング、母子支援プログラムを取り上げ、専門的知識と臨床的対応について学ぶ。

まず、近年の研究で明らかになった胎児期および乳児期の聴覚の発達について整理する。次に、自動ABRやOAEによる新生児聴覚スクリーニングの現状について理解する。これらの学習を踏まえて、乳幼児期の母子支援プログラムについて検討し、小児聴覚障害の臨床および研究に携わる専門家の役割について考察する。

到達目標 (SBOs)

1. 小児聴覚障害の症状・特徴、原因について列挙できる。
2. 胎児期および乳児期の聴覚の発達について説明できる。
3. 自動ABRによる新生児聴覚スクリーニングの現状について説明できる。
4. 乳幼児期の母子支援プログラムと専門家の役割について説明できる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

テキストおよび関連資料・論文を参照し、胎児期および乳児期の聴覚の発達について論述してください。

第2回レポート課題

テキストおよび指定英文テキストを参照し、新生児聴覚スクリーニングの現状と課題について論述してください。

第3回レポート課題

テキストおよび関連資料・論文を参照し、母子支援プログラムと専門家の役割について論述してください。

テキスト

中村公枝他編：標準言語聴覚障害学 聴覚障害学第2版. 医学書院, 2015年, ISBN978-4-260-02117-3, 5616円 (税込)

参考書・参考資料等

適宜、紹介する。

学生に対する評価

レポート課題 (3回) 合格後、科目修了試験において評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健医療技術学特論Ⅱ（摂食・嚥下機能学）	中村 真理子	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標（G10）

食べることは本能的行動の一つであり，食べる機能（摂食・嚥下機能）を維持するということは医療のなかでも重要な治療項目である。治療を行うためにはまず口腔の働きや飲み込む動作を理解することが必要となる。本講義は摂食・嚥下機能，摂食・嚥下障害に対する理解を深めることを目的としている。

到達目標（SBOs）

1. 摂食・嚥下機能について生理学的ならびに解剖学的な面から説明できる。
2. 摂食嚥下障害の原因ならびに病態について説明できる。
3. 文献検索を行い，必要な文献を収集することができる。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

嚥下障害が生じる疾患について

第2回レポート課題

嚥下障害と構音障害との関連

第3回レポート課題

嚥下訓練のエビデンスレベルについて

テキスト

森戸光彦著「老年歯科医学」医歯薬出版

参考書・参考資料等

下山和弘著「基礎からわかる高齢者の口腔健康管理」医歯薬出版
山田好秋著「よくわかる摂食・嚥下のメカニズム」医歯薬出版
佐藤雅昭著「なぜあなたは論文が書けないのか」メディカルレビュー社

学生に対する評価

3回のレポート課題により総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健医療技術学特論Ⅱ（構音・高次脳機能学）	原 修一	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

1. 言語・高次脳機能障害の領域よりテーマを選択し、関連する文献を検索・精読・整理し、各自の研究テーマに関する理解を深める。
2. 文献にて用いられている研究手法や分析法を検討し、各自の研究デザインや分析方法のイメージ作り・確立をはかる。

到達目標 (SBOs)

1. 自己の研究に関する論文や専門書の精読により、研究の現状についてまとめられる。
2. 英語論文を精読し、1. の論文を含めて研究方法、分析方法等を比較し、考察できる。
3. 1.と2を踏まえ、自己の研究テーマとその研究デザインを確立できる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

自分のテーマに関連する論文や専門書を精読し、本邦における研究の現状についてまとめなさい。

第2回レポート課題

自分のテーマに関連する英語論文を3編以上精読し、研究の現状をまとめなさい。また、第1回レポート課題にて精読した論文を含む各論文の調査・実験・分析方法を比較し、その利点・欠点について考察しなさい。

第3回レポート課題

第1回、第2回の課題をふまえた上で、受講者自身の研究テーマと研究目的、研究デザインや今後の展望についてまとめなさい。

テキスト

特に指定はありませんが、レポート課題では下記参考文献を利用してください。

参考書・参考資料等

草間 悟(著)：勉強・研究・発表の技法. 南江堂.
 福井次矢：臨床研究マスターブック. 医学書院.
 古谷野 亘 他(著)：実証研究の手引き—調査と実験の進め方・まとめ方. ワールドプランニング
 このほかに、適宜提示します。

学生に対する評価

レポート3回合格し、かつ科目修了試験において評価します。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健医療技術学特論Ⅲ (視能解剖学)	川野 純一	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

本講では、視覚に関する構造や機能について詳しく学習し、視能解剖学的な考え方や研究手法の習得を目指す。

到達目標 (SBOs)

視覚に関する構造、機能、研究方法について、その概要を説明できる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

レポートでは、指定される英文文献を全訳する。

第2回レポート課題

レポートでは、指定される英文文献を全訳する。

第3回レポート課題

レポートでは、指定される英文文献を全訳する。

テキスト

随時指定される英文文献

参考書・参考資料等

- ・Bron, AJ 他著 Wolf's Anatomy of the Eye and Orbit, 8th ed, Chapman&Hall Medical
- ・Oyster, CW 著 The Human Eye: Structure and Function. Sinauer Associtates.

学生に対する評価

レポートと科目修了試験で評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健医療技術学特論Ⅲ（視能学）	沼田 公子	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標（G10）

保健医療技術学特論Ⅲ（視能学）では、斜視・弱視・眼球運動障害による視能障害に対する理解を深め、臨床例の評価・分析・治療法などについて理論的思考の構築が出来る能力を修得する。

到達目標（SBOs）

1. 疾患の定義、発症メカニズム、症状および臨床的特徴について述べることができる。
2. 疾患に対する治療方法と期待される結果、予後について述べるができる。
3. 1・2 回のレポートで取り上げた疾患または他の関連する疾患に関するトピックスについて概要を述べることができる。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

斜視・弱視・眼球運動障害のうちから、関心のある疾患をひとつ選択し、定義・発症メカニズム・症状および臨床的特徴について専門書や論文を引用してまとめなさい。
 ※レポート提出の際、引用した文献（専門書の場合はそのページのコピー）を併せて提出すること。

第2回レポート課題

第1回のレポートで取りあげた疾患の治療法とその効果について複数の論文を引用してまとめなさい。
 ※レポート提出の際、論文を併せて提出すること。

第3回レポート課題

斜視・弱視・眼球運動障害に関連する英文論文を1編和訳しなさい。
 ※レポート提出の際、論文を併せて提出すること。

テキスト

指定しない

参考書・参考資料等

指定しない

学生に対する評価

3回のレポートおよび、科目修了試験において評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健医療技術学特論Ⅳ（人工臓器学）	丹下 佳洋	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

高度化する医療技術のもとで行われる治療、介護によって人間の健康、福祉のあり方がどう変化していくべきか、現在の大きな問題となっている。たとえば、COPD（慢性閉塞性肺疾患）における在宅酸素療法は従来の医療のあり方を大きく変えたが、それに対する医療のあり方、社会制度、介護は適切かどうか、今後も引き続き十分な検討が必要である。慢性腎不全患者に対して行われている、人工臓器の代表的例としての血液透析治療も、欧米では医師不在のローケア透析ユニットが作られ、患者は自宅近くのユニットで透析を受けているが、日本ではまだ認可されていない。技術の発達に比較して制度、介護方法は後れをとる傾向にあり、人類の幸福という観点から考えると早急に検討すべきことは多い。本特論では各自の専門領域を考慮し、人工臓器と人類の幸福のあり方についてレポートをまとめる。

到達目標 (SBOs)

1. 各自が選定した人工臓器の具体例を明確にできる。
2. その人工臓器の問題点などを説明できる。
3. 引用文献が正しく記載できる。
4. 将来の人工臓器のあり方について、自分の意見を述べることができる。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

人工臓器の具体例を1例挙げ、現状のシステムについて調査、記述しなさい。人工臓器は幅を広げて考えてよく、血液透析のほか、人工臓腑、生体機能補助としての在宅酸素など、各自の専門分野を取り上げてよい。レポートの最初のページに課題レポートのアブストラクトを英文 250 words 以内で作成すること。

第2回レポート課題

第1回目レポートで取り上げた人工臓器などの臨床例について調査、記述しなさい。とくに、患者を取り巻く環境、問題点、社会制度について検討すること。また、国内だけではなく、海外での実例についても調査、記述すること。レポートの最初のページに課題レポートのアブストラクトを英文 250 words 以内で作成すること。

第3回レポート課題

第1回目、2回目のレポートとは関係なく、人工臓器のあり方について自分の意見を記述すること。その際、日本における医療費の内訳、高齢者対策、保険制度についても調査し、人工臓器は今後、どうあるべきかについて記述すること。レポートの最初のページに課題レポートのアブストラクトを英文 250 words 以内で作成すること。

テキスト

参考書・参考資料等

学生に対する評価

3回のレポートに合格し、科目修了試験において評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健医療技術学特論Ⅳ（医療機器安全管理学）	戸畑 裕志	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標（G10）

医療機器を安全に使用するためには、それぞれの機器、使用環境などをシステムとして検討する必要がある。本講義では医療機器を使用する上での環境についての安全性を理解しシステム的な安全対策について考察する。

到達目標（SBOs）

1. 医療機器を安全に使用するための問題点を総論的に説明できる。
2. 医療施設での医療設備（電源、医療ガス、空調など）の問題点を説明できる。
3. 医療設備と医療機器とのシステム安全を説明できる。
4. 医療機器と電磁環境問題について討議できる知識を習得する。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

医療機器を使用する上での安全性についての医療施設内での諸問題を包括的に検討する。

第2回レポート課題

病院内のハードウェアとしての医療設備の問題点・安全対策について検討する。

第3回レポート課題

医療機器における電磁環境問題について調査し検討する。

テキスト

参考書・参考資料等

臨床工学（CE）とME機器・システムの安全（渡辺敏編著，コロナ（社），2006）
生体用センサと計測装置（山越憲一，戸川達夫共著，コロナ（社），2006）

学生に対する評価

3回のレポートに合格し、科目修了試験において評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健医療技術学特論Ⅳ（生体計測学）	清水 慶久	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

生体計測には、心電図のように電気現象を記録するものや、血圧測定のように物理現象をトランスデューサやセンサで電気信号に変換し記録するものがあげられる。また生体計測には、超音波診断装置や核磁気共鳴装置などの装置を用いた画像診断、ならびに血液や尿など生体由来の検体を対象とした化学量の分析も含まれる。さまざまな生体計測技術が、保健、医療の場における疾病の予防、診断にとどまらず、治療の際にも活用されている。本特論では、生体計測の技術について、基本原理、計測装置の構成、臨床応用などを詳細に調査し、理解することを目標とする。

到達目標 (SBOs)

1. 生体計測装置について、その原理と装置構成を詳細に説明できる。
2. 生体計測技術が、現在までの間にどのような進歩を遂げてきたかを解説できる。
3. 生体計測技術の問題点を取り上げ、その解決法について考察することができる。
4. 本特論で得られた生体計測装置に関する知識を、研究遂行時のデータ収集に活用することができる。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

生体計測装置の中から自らが得意とするものを1つ選び、①原理、②装置構成、③計測で得られるデータの評価について、成書や文献を調査し、詳しくまとめる。その際、成書や文献から引用した箇所は、必ずレポートの最後に参考文献として明記すること。

第2回レポート課題

第1回のレポートで取り上げた生体計測技術が、開発初期から現在までの間にどのように改良され、進歩してきたのかを成書や文献を調査し、時系列で記述する。とくに生体計測技術の基盤となったインパクトの高い英文論文を収集、精読し、その内容についても記述すること。

第3回レポート課題

第1回のレポートで取り上げた生体計測技術について、誤差要因などの問題点を成書や文献から調査する。また調査結果をもとに、生体計測技術に潜む問題点について、その対策法や解決法を自らの考察を交えて記述する。

テキスト

指定しない

参考書・参考資料等

臨床工学シリーズ13 生体計測学（金井寛 他 著，コロナ社，2009）

学生に対する評価

3回のレポートに合格し、科目修了試験において評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健医療技術学特論Ⅳ（医用治療機器学）	右田 平八	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標（G10）

医用治療機器学では、臨床利用されている医用治療機器の原理・構造・治療条件・操作法等について基本的概念を習得する。また医用治療機器は、効果と同時に安全性が優先されることから、運用上での落とし穴や、不具合が生じた場合の発見方法、緊急時を含む対処方法を、保守点検方法を理解する。本特論では、医用治療機器の技術について、基本原理、計測装置の構成、臨床応用などを詳細に調査し、理解することを目標とする。

到達目標（SBOs）

1. 医用治療機器の作用と治療効果を説明できる。
2. 医用治療機器の原理・構造を説明できる。
3. 医用治療機器の取扱と注意点を列挙し説明できる。
4. 医用治療機器の保守管理について説明できる。
5. 医用治療機器の問題点を取り上げ、その解決法について考察することができる。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

医用治療機器の中から各自の得意とするものを1つ選び、①原理、②装置構成、③計測で得られるデータの評価について成書や文献を調査し、詳しくまとめる。その際、成書や文献から引用した箇所は、必ずレポートの最後に参考文献として明記すること。

第2回レポート課題

第1回のレポートで取り上げた医用治療機器が、開発初期から現在までの間にどのように改良され、進歩してきたのかを成書や文献を調査し、記述する。とくに治療機器技術の基盤となったインパクトの高い英文論文を収集、精読し、その内容についても記述すること。

第3回レポート課題

第1回のレポートで取り上げた医用治療機器について、精度誤差要因や医療事故などの問題点を成書や文献から調査する。また調査結果をもとに、医用地用機器に潜む問題点について、その対策法や解決法を自らの考察を交えて記述する。

テキスト

指定しない

参考書・参考資料等

臨床工学 プラクティカル・フルコース（編集 川崎忠行）メジカルビュー社 【ISBN978-4-7583-1494-7】

学生に対する評価

3回のレポートに合格し、科目修了試験において評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健医療技術学特論Ⅳ（生体機能代行装置学）	吉武 重徳	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

生体機能代行装置学分野

受講生は、人体の持つ生理的機能を医療機器を通して補い、代行することで、QOLの改善が望めることが大きな利点であると共に、各臓器を完全に代行するには至らないための欠点が現時点では存在することを認識する。またその対面には、移植医療というのが存在することを理解する。

到達目標 (SBOs)

ここでは、生体機能代行装置についての総論として、関連文献（英語）を通読し、その歴史的背景から、現在、未来からの観点より、臨床工学技士というプロフェッショナルとしてどうあるべきなのかを、学習していく。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

指定の英文論文を、抄読し、臓器機能についてまとめ、検討した結果を提出

第2回レポート課題

ひとつの主要臓器の機能代行が、QOLにあたるインパクトについて、英文論文を参考に検討した結果を提出。

第3回レポート課題

主要臓器障害とリンクした機能代行が、個人、家族、社会、医療経済にあたるインパクトについて、英文論文を参考に検討した結果を提出。

テキスト

特に指定テキストはありません。

参考書・参考資料等

適宜、参考文献を送付・提示します。

学生に対する評価

3回のレポートに合格し、科目修了試験において評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健医療技術学特論Ⅳ（感染制御・治療学）	渡辺 渡	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

医療現場における感染症対策は、医療機器の高度・複雑化に伴いその重要度が高まっている。本講義では、院内感染症の基本的な項目を解説する。そのうえで、医療機器（医用治療機器、生体機能代行装置および生体計測装置）における感染リスクのクリティカルポイントを理解することを目的とする。さらに海外（特に米国）における感染制御の情報を入手して、わが国での応用について考察をする。

到達目標 (SBOs)

- 1) 院内感染症について説明できる。
- 2) 医用治療機器における感染リスクのクリティカルポイントを説明できる。
- 3) 生体機能代行装置における感染リスクのクリティカルポイントを説明できる。
- 4) 生体計測装置における感染リスクのクリティカルポイントを説明できる。
- 5) 感染制御における最新の情報を入手して活用できる。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

SBOs: 1)

各自の体験や環境に基づいて、最も関心のある院内感染症について記述する。

第2回レポート課題

SBOs: 1)～4)

医療機器の中から最も関心がある機器（装置）を選び、感染リスクが高いと考えられる構造や動作について記述する。

第3回レポート課題

SBOs: 1)～5)

CDC（米国疾病対策センター）やNIH（米国衛生研究所）などの web site より感染報告レポートのうち医療機器に関わるものを一つ選び、その Abstract を和訳して記述する。

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

必要に応じて紹介する。

学生に対する評価

3回のレポートに合格し、科目修了試験において評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健医療技術学特論V (細胞生理生化学)	西片 一郎	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

生理生化学は、本来、生体のすべての機能とそのメカニズムについて、統合的な解明を目指す学問である。その結果、臨床医学・医療における「ゴールデンスタンダード」として、「正常とは何か」を問う学問体系という位置付けにほかならない。本講義では、討議を含め、様々な細胞レベルでの動的平衡の事例（ストレス応答・細胞死・分化誘導）について理解を深め、これらの事例を統合することにより、細胞レベルでの「正常とは何か」という問いとその答えについて、学習する。

到達目標 (SBOs)

- (1) 「ストレス応答」について、具体例を掲げ、基本概念を理解することにより、その存在様式の意義を説明できる。
- (2) 「細胞死」について、具体例を掲げ、基本概念を理解することにより、その存在様式の意義を説明できる。
- (3) 「分化誘導」について、具体例を掲げ、基本概念を理解することにより、その存在様式の意義を説明できる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

「ストレス応答」というテーマで、具体例を幾つか掲げ、基本概念と存在様式の意義を述べ、細胞レベルでの「正常とは何か」に関する持論を、科学的根拠に基づき、展開せよ。

第2回レポート課題

「細胞死」というテーマで、具体例を幾つか掲げ、基本概念と存在様式の意義を述べ、細胞レベルでの「正常とは何か」に関する持論を、科学的根拠に基づき、展開せよ。

第3回レポート課題

「分化誘導」というテーマで、具体例を幾つか掲げ、基本概念と存在様式の意義を述べ、細胞レベルでの「正常とは何か」に関する持論を、科学的根拠に基づき、展開せよ。

テキスト

- (1) Molecular Biology of the Cell 6th Edition (6E) (英語) [ただし、改訂があれば、最新刊に変更]
- (2) Molecular Biology of the Cell 6E - The Problems Book (英語) [ただし、改訂があれば、最新刊に変更]

参考書・参考資料等

参考書・参考資料等について、特別な限定はない。
必要となれば、PDF ファイルもしくは紙媒体で、こちらから提供する。

学生に対する評価

3回のレポートに合格し、科目修了試験において評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健医療技術学特論Ⅴ（分子細胞病理学）	宮本 朋幸	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

がん研究を進めるに当たっては、がんに関連する基礎的知識を習得することが必須である。外科病理学から分子生物学までを網羅した癌に関する知識を習得する。

到達目標 (SBOs)

- 1) 一般的ながんの特性を理解する。
- 2) 過去の文献を理解するために必要な実験手技を整理する。
- 3) 各臓器における癌の特性の違いを理解する。
- 4) 癌に関連する主要な遺伝子の働きを理解する。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

指定論文を読んで内容をまとめる。

第2回レポート課題

指定論文を読んで内容をまとめる。

第3回レポート課題

指定論文を読んで内容をまとめる。

テキスト

テキストは原則的にありません。

参考書・参考資料等

必要に応じて参考文献を指示します。

学生に対する評価

3回のレポートに合格し、科目修了試験において評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健医療技術学演習Ⅰ（小児発達学）	内勢 美絵子	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標（G10）

【概要】本講義では、発達に凸凹のある子どもの特性・発達と環境（人的・物理的）、治療・援助について、テキストを熟読し、さらに当事者による「生」の情報を得ることで、発達障害は発達するという事、そのためにどのような発達援助を実践していけばよいのかについて学習する。

【一般目標（G10）】発達障害への理解を深めることにより、発達援助の実践を重ね、また当事者や家族が自分で、安価に、自宅のできる療育・養生のコツを考案するための基礎をつくることができる。

到達目標（SBOs）

- 1) 発達障害の全体像について説明できる。
- 2) 発達障害の診断と治療について説明できる。
- 3) 当事者の教示する「生」の情報について説明できる。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

【SBOs】 1) 2)

発達障害の全体像および診断について論述する。その際、テキストを熟読し、複数の関連文献を引用する。

第2回レポート課題

【SBOs】 1) ~ 3) のいずれか

発達障害に関する英語論文を一つ選択し、その内容を要約し意見を述べる（英論文は添付ファイルとして提出）。

第3回レポート課題

【SBOs】 2) 3)

発達障害に対する治療、発達援助について論述する。その際、テキストを熟読し、複数の関連文献、当事者の自叙伝等を引用する。

テキスト

神田橋條治：発達障害をめぐって。岩崎学術出版社，ISBN 978-4-7533-1143-2

参考書・参考資料等

神田橋條治他：発達障害は治りますか？。花風社，ISBN978-4907725785
神田橋條治他：神田橋條治の精神科診察室。IAP出版，ISBN978-4-908863-04-2
青木省三：ぼくらの中の発達障害。ちくまプリマー新書，ISBN 978-480-68892-7

神田橋條治：追補精神科診断面接のコツ。岩崎学術出版社，ISBN 978-4-753394081

神田橋條治：改訂精神科養生のコツ。岩崎学術出版社，ISBN978-4-753309047

藤家寛子：他の誰かになりたかった。花風社，ISBN978-4-907725969

小道モコ：あたし研究。クリエイツかもがわ，ISBN978-4-863420335

小道モコ：あたし研究Ⅱ。クリエイツかもがわ，ISBN978-4-863421196

東田直樹：自閉症の僕が飛び跳ねる理由。エスコアール，ISBN978-4-900851-38-2

熊谷晋一郎編：みんなの当事者研究。臨床倫理学，増刊第9号，金剛出版，ISBN978-4-7724-15571-2

こより：支援者なくとも、自閉っ子は育つ 親子でラクになる34のヒント。花風社，978-4-907725952

栗本啓介：人間脳の根っこを育てる 進化の過程をたどる発達の近道。花風社，ISBN978-4-907725990

学生に対する評価

3回のレポート合格と科目修了試験において評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健医療技術学演習 I (運動学)	立石 修康	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

※概要

本講義は保健医療技術特論 I (運動学分野) において、主に言葉で理解した骨筋系の運動学についての知見を深め、視覚的に表現して明確化することを目的とする。具体的には、技術特論 I で作成したレポートを元に、これを解説するための解りやすい文章とイラストを作成する。

※G10

学習者は、骨筋系の運動学的知見を深め、イラスト化する事でさらに明確化することができる。患者や学生等、説明を必要とする対象者に対して、必要に応じたイラストをその場で作画し説明する事ができる。

到達目標 (SBOs)

1. 学習者は上肢における骨と関節構造と運動の関係を理解し、患者や学生に対して説明可能なイラストを作る事ができる。
2. 学習者は上肢における骨と関節構造と運動の関係を理解し、患者や学生に対して説明可能なイラストを作る事ができる。
3. 任意の運動器疾患 (傷害) について理解を深め、リハビリテーションのための説明図を作る事ができる。

授業計画 (レポートの課題)

第 1 回レポート課題

保健医療技術特論 I (運動学分野) の第 1 回レポートを元に、オリジナルイラストを含めた解りやすい解説書を作りなさい。

注: イラストは文献等のイラストのスクリーンイメージを貼付するのではなく、受講者が作成したオリジナルイラストを使用する。イラストは手描きでも PC を使っても構わない。手描きの場合はそのスクリーンイメージを添付する。PC の場合は、Adobe Illustrator を推奨するが、高価なので他のソフトでも構わない。

第 2 回レポート課題

保健医療技術特論 I (運動学分野) の第 2 回レポートを元に、オリジナルイラストを含めた解りやすい解説書を作りなさい。

注: 同上

第 3 回レポート課題

骨筋系の運動学に関連する英語論文を任意の一つ選択し和訳しなさい。その際、内容を端的に表したイラストを作成しなさい。

注: 同上

テキスト

保健医療技術特論 I で使用したものと同一。

参考書・参考資料等

保健医療技術特論 I で紹介したものと同一。

学生に対する評価

3 回のレポートに合格したうえで、科目終了試験において評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健医療技術学演習 I (運動処方学)	樋口 博之	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

臨床分野では、患者に対し、日常生活への早期回復を目的に、薬処方、リハビリテーション（理学療法・作業療法）、食事療法などさまざまな処方が行われる。また、完全な回復が困難な病態では、機能低下を防ぐ目的で処方が行われている。

運動療法は、運動器（骨、骨格筋、腱、靭帯、関節）への直接的な効果のみならず、認知症の予防・治療にも有効であると報告されている。しかしながら、ヒトを対象としたエビデンスは少なく、動物実験により運動が運動野だけでなく、記憶・認知に関連する海馬の活性が報告された段階である。

本講義では、保健医療技術学特論 I を発展させ、運動処方による効果と可能性について論理的に考えることができるよう学習する。

到達目標 (SBOs)

- ・高酸素・低酸素環境に対する生理的な反応について理解する
- ・転倒の要因について理解を深め、高齢者の転倒予防法について考える
- ・運動が認知症の予防に有効であるか？ 海外の研究論文からの情報を理解する能力を高める

授業計画 (レポートの課題)

第 1 回レポート課題

高圧酸素療法と高所トレーニングについてまとめなさい
(ポイント：高所環境では酸素濃度が低くなり、初期に血中酸素飽和度も低下します)

第 2 回レポート課題

高齢者の転倒について身体機能からみた要因を列挙し、予防法についてまとめなさい
(キーワード：バランス機能、筋力、視機能)

第 3 回レポート課題

運動 (Exercise) と認知症 (Dementia) をキーワードとし、PubMed で英語論文を検索し、興味ある英語論文を全訳しなさい。
(英語論文は添付ファイルとして提出するか、コピーを郵送して下さい)

テキスト

なし

参考書・参考資料等

(図書)

- ・運動療法ガイド-正しい運動処方を求めて-、井上一・武藤芳照、日本醫事新報社
- ・スポーツ生理学、森谷敏夫・根本勇、朝倉書店
- ・運動処方の指針、アメリカスポーツ医学会、南江堂

学生に対する評価

3 回のレポート課題の提出により、科目修了試験を行い、総合評価とする

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健医療技術学演習 I (作業療法学)	福本 安甫	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

この科目は保健医療技術学特論 I と連動して、修士課程における研究視点の創成を目指して開講するものであり、本科目の履修を通して研究に必要な「課題の具体化」と「課題解決へのエビデンスづくり」に関する知識を習得する。

到達目標 (SBOs)

1. 高齢者や障害者の生活とリハビリテーションの関連を説明できる。
2. 生活機能体としてみることで「人と生活」における課題の見つけ方を説明できる。
3. 課題解決におけるエビデンスの意義を説明できる。

授業計画 (レポートの課題)

第 1 回レポート課題

高齢者のリハビリテーションにおける課題を取り上げ、その具体的な解決方法について記述しなさい。
(高齢者の生活という視点からリハビリテーションの課題を考えることがテーマ。可能ならば手記などを通して高齢者やその周辺の人々の考えを取り入れながら記述してください)。

第 2 回レポート課題

興味ある疾患や障害について生活機能障害 (ICF) の構造化を行い、そこから見えてくる新たな課題を考察しなさい。
(ICF の理解と新たな課題発見がテーマ)

第 3 回レポート課題

中枢神経系疾患のリハビリテーションに関する英語論文を一つ選択し、その要約とともに「課題解決とエビデンス」の関係を述べなさい。
(英語論文へのなじみを深めることとエビデンスへの視点づくりがテーマ)

テキスト

使用しない。

参考書・参考資料等

使用しない。

学生に対する評価

3 回レポートの合格と科目修了試験で評価。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健医療技術学演習Ⅱ（言語聴覚障害学）	太田 栄次	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

医療の世界で最新の情報を入手するためには英語の文献の読解が不可欠である。この講座では、配布する英文で書かれた論文の読解を通して、医療や言語聴覚療法に関わる内容の英文を正確に読解し、その内容を的確に把握する訓練を行う。また、そうした読解にとって欠かせない基本的な専門用語の知識を身につけることも目指す。

到達目標 (SBOs)

1. 基本的な医療系英単語が理解できる。
2. 医療・言語聴覚療法に関する英文を読んで、その内容を理解することができる。
3. 医療・言語聴覚療法に関する英文を読んで、その内容を的確にまとめることができる。
4. 学術的な内容の文章を批判的に考えながら読んでいくことができる。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

指定された英文の論文を読み、その内容をまとめ、さらにその内容を批判的に検討する。

第2回レポート課題

指定された英文の論文を読み、その内容をまとめ、さらにその内容を批判的に検討する。

第3回レポート課題

指定された英文の論文を読み、その内容をまとめ、さらにその内容を批判的に検討する。

テキスト

随時指定される文献

参考書・参考資料等

随時指定される文献

学生に対する評価

3回のレポートの内容と、科目終了試験において評価します。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健医療技術学演習Ⅱ（聴覚機能学）	倉内 紀子	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

聴覚障害領域の最新のトピックの中から人工内耳を取り上げ、研究の歴史、現状、課題、展望について知識と理解を深める。とくに、小児人工内耳の術前・術後の（リ）ハビリテーションについて学ぶ。

まず、小児人工内耳の意義と課題について整理し、人工内耳の効果に関連する要因の検討を行う。次に、聴取能力、言語・コミュニケーション能力、発声発話能力の観点から、人工内耳埋め込み後の長期成績を分析する。さらに、英文論文を含めた複数の論文の抄読を通して、研究の動向について考察する。

到達目標 (SBOs)

1. 人工内耳の効果に関連する要因について説明できる。
2. 聴取能力の観点から、人工内耳埋め込み後の長期成績を分析できる。
3. 言語・コミュニケーション能力の観点から、人工内耳埋め込み後の長期成績を分析できる。
4. 発声発話能力の観点から、人工内耳埋め込み後の長期成績を分析できる。
5. 設定したテーマについて、研究の動向を論述することができる。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

テキストおよび関連資料・論文を参照し、小児人工内耳の意義と課題について整理した上で、人工内耳の効果に関連する要因を検討してください。

第2回レポート課題

テキストおよび関連資料・論文を参照し、人工内耳埋め込み後の長期成績について聴取能力、言語・コミュニケーション能力、発声発話能力の観点から論述してください。

第3回レポート課題

第2回レポートに関連する論文3編（英文論文1編を含む）を読み、研究の動向について論述してください。選択した論文を郵送または添付してください。（例；人工内耳装用後の聴性行動の評価法に関する研究について）

テキスト

中村公枝他編：標準言語聴覚障害学 聴覚障害学第2版. 医学書院, 2015年, ISBN978-4-260-02117-3, 5616円（税込）

参考書・参考資料等

特集 補聴器と人工内耳ー最近の進歩と将来展望. JOHNS, Vol. 24, No. 9, 2008年

学生に対する評価

レポート課題（3回）合格後、科目修了試験において評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健医療技術学演習Ⅱ（摂食・嚥下機能学）	中村 真理子	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標（G10）

「保健医療技術特論Ⅱ」において修得した知識をもとに、摂食・嚥下障害についての治療・訓練について理解を深めること、ならびに摂食・嚥下障害について最新の知見が収集できるようになることが本講義の目的である。

到達目標（SBOs）

1. 摂食・嚥下障害リハビリテーションの進め方の概念を理解できる。
2. 摂食・嚥下障害の治療の現状を理解し、問題点が抽出できる。
3. 自身が設定したテーマに関する論文精読を行い、研究の動向が説明できる。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

摂食嚥下リハビリテーションと口腔機能の関係について

第2回レポート課題

高齢者の摂食・嚥下機能と認知症の関係について

第3回レポート課題

論文（英文テキスト）をA4 1枚に内容をまとめること。

テキスト

森戸光彦著「老年歯科医学」医歯薬出版

参考書・参考資料等

下山和弘著「基礎からわかる高齢者の口腔健康管理」医歯薬出版
佐藤雅昭著「なぜあなたは論文が書けないのか」メディカルレビュー社

学生に対する評価

3回のレポートから総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健医療技術学演習Ⅱ（構音・高次脳機能学）	原 修一	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標（G10）

言語・高次脳機能障害の領域よりテーマを選択し、関連する文献を検索・精読・整理し、各自の研究テーマに関する理解を深める。また、文献にて用いられている研究手法や分析法を検討し、各自の研究デザインや分析方法のイメージ作り・確立をはかる。

到達目標（SBOs）

1. 各自の研究テーマに関連する文献を検索・精読・整理できる。
2. 文献内の研究手法や分析法を検討し、各自の研究デザインや分析方法のイメージ作りができる。
3. テーマに関連する学術雑誌は日常的に検索できる。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

自分のテーマに関連する論文や専門書を精読し、本邦における研究の現状についてまとめなさい。

第2回レポート課題

自分のテーマに関連する英語論文を3編以上精読し、研究の現状をまとめなさい。また、第1回レポート課題にて精読した論文を含む各論文の調査・実験・分析方法を比較し、その利点・欠点について考察しなさい。

第3回レポート課題

第1回、第2回の課題をふまえた上で、受講者自身の研究テーマと研究目的、研究デザインや今後の展望についてまとめなさい。

テキスト

特に指定はありませんが、レポート課題では下記参考文献を利用してください。

参考書・参考資料等

草間 悟(著)：勉強・研究・発表の技法. 南江堂.

福井次矢：臨床研究マスターブック. 医学書院.

Riegelman RK 他（編）：医学論文を読む—臨床医に必要な統計学の基礎. メディカルサイエンスインターナショナル.

古谷野 亘 他(著)：実証研究の手引き—調査と実験の進め方・まとめ方. ワールドプランニング.

学生に対する評価

レポート3回合格し、かつ科目修了試験において評価します。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健医療技術学演習Ⅲ（視能解剖学）	川野 純一	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

本科目では、保健医療技術学特論Ⅲの基礎のもとに、より実践的な学習を行う。
最新の視能解剖学的话题についての文献のなかから、職場の課題に最も関連したものを選び、これを批判的に読んで議論を行う。

到達目標 (SBOs)

特定の視覚に関する構造と機能について自分自身のことばで説明ができる。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

英文文献の全訳と、その内容に関する議論を行う。

第2回レポート課題

英文文献の全訳と、その内容に関する議論を行う。

第3回レポート課題

英文文献の全訳と、その内容に関する議論を行う。

テキスト

担当教員と話し合っ決めて英文文献

参考書・参考資料等

指定しない。

学生に対する評価

レポートと科目修了試験で判定する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健医療技術学演習Ⅲ（視能学）	沼田 公子	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標（G10）

斜視・弱視・眼球運動障害による視能障害からテーマを選択し、関連する専門書、論文を精読して当該分野の現状を理解する。更に論文精読を通じて表現能力を養い、研究手法・分析方法などについて知識を深めるとともに自分の研究テーマのデザインの確立をはかる。

到達目標（SBOs）

1. 専門書、論文を読み、その要旨をまとめることができる。
2. 専門書、論文から自身の研究に必要な知識を得ることができる。
3. 自身の研究に関連する分野の現状を把握し、研究を進めるにあたって障害となる問題点を抽出し、その対策をたてることことができる。
4. 1・2回のレポートから自身の研究テーマの意義・目的・実験方法・分析方法のデザインをまとめることができる。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

自身の研究テーマに関連する専門書・論文を精読し、その分野の現状についてまとめなさい。
※レポート提出の際、論文を併せて提出すること。

第2回レポート課題

自身の研究テーマに関連する英文論文の和訳を2編行い、第1回のレポートで精読した論文を含め、その分野の問題点について考察しなさい。
※レポート提出の際、論文を併せて提出すること。

第3回レポート課題

第1・2回のレポートで得た知識を基に、自身の研究テーマの意義・目的・実験方法・分析方法など研究デザインの展望を述べなさい。

テキスト

参考書・参考資料等

指定しない

学生に対する評価

3回のレポートの評価および科目修了試験において評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健医療技術学演習Ⅳ（人工臓器学）	丹下 佳洋	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

さまざまな人工臓器が医療に普及している。本科目ではそれらの具体的例を挙げながら、さまざまな視点から理解を深める。高度化する人工臓器の具体例を調査し、その問題点、今後のあるべき姿について国内外の事例をふまえて考察する。なお、文献検索方法（和文誌、英文誌）およびレポートへの標記方法について習得し、情報収集方法についても身に付けることができる。レポートの英文による抄録（abstract）を記述することで、英語を使用し、レポート課題をまとめる。

到達目標 (SBOs)

各テーマ（毎回のレポートテーマ）について、以下の項目が説明できる。

1. 対象とする人工臓器の構造について日本のみならず海外動向について説明できる。
2. 人工臓器を取り巻く全体のシステムについて説明できる。
3. 人工臓器ごとの使用方法・期間などについて説明できる。
4. 日本および海外の社会保険制度について説明できる。
5. 患者数などの統計情報（国内および海外の動向）を調査し、まとめることができる。
6. 患者を取り巻く環境なども含めた課題・問題点について説明できる。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

人工呼吸器について上記各項目について調査、記述しなさい。レポートの最初のページに課題レポートの抽象トクトを英文 250 words 以内で作成すること。引用文献は和文誌および英文誌から引用すること。文献管理ソフトを使用してもよい。

第2回レポート課題

人工心臓について上記項目について調査、記述しなさい。レポートの最初のページに課題レポートの抽象トクトを英文 250 words 以内で作成すること。引用文献は和文誌および英文誌から引用すること。文献管理ソフトを使用してもよい。

第3回レポート課題

人工腎臓について上記項目について調査、記述しなさい。レポートの最初のページに課題レポートの抽象トクトを英文 250 words 以内で作成すること。引用文献は和文誌および英文誌から引用すること。文献管理ソフトを使用してもよい。

テキスト

参考書・参考資料等

学生に対する評価

3回のレポートに合格し、科目修了試験において評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健医療技術学演習Ⅳ（医療機器安全管理学）	戸畑 裕志	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標（G10）

医療において診断監視装置、治療機器などの医療機器の進歩はめざましいものがあり治療効果をあげている。これらの医療機器は、各々単独で使用する場合は、安全性に関する問題点はないものの、複合的に使用すると干渉を起こし、トラブルが発生し最悪の場合は患者へ被害を与えることとなる。安全に使用するためには、それぞれの機器、使用環境などをシステムとして検討する必要がある。本演習では、まず医療機器を使用する上での機器固有の問題点について掘り下げ、機器の安全な設計および安全使用の指導について検討するなかでシステムとしての安全対策について習得する。

到達目標（SBOs）

1. 診断監視装置の特性・安全対策について説明できる。
2. 治療装置の特性（各種エネルギーと生体反応）について説明できる。
3. 各種エネルギーに対する安全性を説明できる。
4. 医療機器の組み合わせ使用による安全性について説明できる。
5. システム安全のために分析方法について習得する。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

診断監視装置（心電・心電図モニタ、血圧モニタ、体温モニタ、パルスオキシメータ、カプノメータ、超音波診断装置）より、1つ選び機器の特性・安全性について検討する。

第2回レポート課題

治療用装置（心臓ペースメーカー、除細動装置、大動脈内バルーンポンプ装置、電機メス、個人用透析装置、人工呼吸器、レーザー手術装置、超音波メス、麻酔器、吸引装置、輸液ポンプ）より、1つ選び機器の特性・安全性について検討する

第3回レポート課題

医療機器を使用する際のシステム安全についての分析手法、評価方法について検討する。

テキスト

なし

参考書・参考資料等

1. 人は誰でも間違える：L.コソ/J.コリガン/M.ドナルドソン編、医学ジャーナリスト協会訳、日本評論社、2002
2. 失敗学の法則：畑村洋太郎、文藝春秋、2005
3. だから失敗は起こる：畑村洋太郎、日本放送出版協会、2006

学生に対する評価

3回のレポートに合格し、科目修了試験において評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健医療技術学演習Ⅳ（生体計測学）	清水 慶久	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

生体計測では、物理量や化学量を電気信号に変換する各種トランスデューサ、センサが用いられる。なお生体計測の精度は、トランスデューサ、センサの精度に左右され、これらの理解は生体計測を行う上で重要となる。研究を推進する上で、データ取得のための計測手法の選択は、最も精度の高い手法を選択すべきである。そのためには、トランスデューサ、センサの構造、原理の理解が必要である。本演習では、各種トランスデューサ、センサに着目し、その原理や構造について詳細な調査を行い、理解を深めることを目的とする。さらに保健、医療分野への活用に関する、今後の展望について考察できることを目標とする。

到達目標 (SBOs)

1. トランスデューサ、センサについて、その原理、構造を詳細に説明できる。
2. トランスデューサ、センサが有する問題点をとり上げ、その対策法、解決法を解説できる。
3. 保健、医療におけるトランスデューサ、センサの活用例を挙げることができ、今後の展望について考察することができる。
4. トランスデューサ、センサの理解から、研究で必要なデータを取得するための、適切な計測手法を選択することができる。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

変位、力の計測に用いられるトランスデューサ、センサの中から1つ選び、①『原理、構造』、②『問題点とその対策』、③『保健、医療における活用例』、④『今後の展望』について成書や文献を調査し、詳しくまとめる。なお『④今後の展望』については、インパクトの高い1編の英文報告を選択し、その内容とともに、自らの考察を交えて記述する。

第2回レポート課題

流量、流速、温度の計測に用いられるトランスデューサ、センサの中から1つ選び、①『原理、構造』、②『問題点とその対策』、③『保健、医療における活用例』、④『今後の展望』について成書や文献を調査し、詳しくまとめる。なお『④今後の展望』については、インパクトの高い1編の英文報告を選択し、その内容とともに、自らの考察を交えて記述する。

第3回レポート課題

化学量（例えば血液や尿中に含まれる成分）を計測するセンサの中から1つ選び、①『原理、構造』、②『問題点とその対策』、③『保健、医療における活用例』、④『今後の展望』について成書や文献を調査し、詳しくまとめる。なお『④今後の展望』については、インパクトの高い1編の英文報告を選択し、その内容とともに、自らの考察を交えて記述する。

テキスト

指定しない

参考書・参考資料等

生体用センサと計測装置（山越憲一，戸川達男 共著，コロナ社，2009）

学生に対する評価

3回のレポートに合格し、科目修了試験において評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健医療技術学演習Ⅳ（医用治療機器学）	右田 平八	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標（G10）

医用治療機器では、機能不全に陥った患者の「呼吸」、「循環」、「代謝」を一部代替して治療が行われる。本演習では、「呼吸」、「循環」、「代謝」に関連する治療機器を選択し、臓器別の解剖、生理を基盤として、治療機器の原理、ならびにそれらの有用性と適応疾患に関する知識を深めることを目的とする。また保健、医療分野への活用例から今後の展望について考察する。

到達目標（SBOs）

1. 医用治療機器について、その原理、構造を詳細に説明できる。
2. 医用治療機器が有する問題点を取り上げ、その対策法を解説できる。
3. 保健、医療における医用治療機器の活用例を挙げることができ、今後の展望について考察することができる。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

医用治療機器の中から1つ選び、

- ①『原理、構造』、②『問題点とその対策』、③『保健、医療における活用例』、④『今後の展望』について成書や文献を調査し、詳しくまとめる。なお『④今後の展望』については、関連する英文報告の収集を行い、その内容とともに、自らの考察を交えて記述する。

第2回レポート課題

「呼吸」、「循環」、「代謝」の治療に用いられる医用治療機器の中から1つ選び、

- ①『原理、構造』、②『問題点とその対策』、③『保健、医療における活用例』、④『今後の展望』について成書や文献を調査し、詳しくまとめる。なお『④今後の展望』については、関連する英文報告の収集を行い、その内容とともに、自らの考察を交えて記述する。

第3回レポート課題

第2回のレポートで取り上げた医用治療機器の安全機構（fail safe または foolproof）について1つ選び、

- ①『原理、構造』、②『問題点とその対策』、③『保健、医療における活用例』、④『今後の展望』について成書や文献を調査し、詳しくまとめる。なお『④今後の展望』については、関連する英文報告の収集を行い、その内容とともに、自らの考察を交えて記述する。

テキスト

指定しない

参考書・参考資料等

- ・MEの基礎知識と安全管理 改訂第6版(監修 日本生体医工学会 ME技術教育委員会)
南江堂 ISBN978-4-524-26959

学生に対する評価

3回のレポートに合格し、科目修了試験において評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健医療技術学演習Ⅳ（生体機能代行措置学）	吉武 重徳	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

受講生は、生体機能代行装置学の総論的なことを十分に把握していることを前提に、科学的に事象を分析して、客観的に批評できるような思考を形成することを目標とする。臨床工学技士として得意な生体機能代行装置（ひとつまたは、複数可能）に関して、立案、データ収集、結果作成、考察までの一連の流れを参考英語論文等を通読、精読して、その手技を学習することを目標とする。

到達目標 (SBOs)

論文等を通読、精読するなかで、論文に対して、評価し議論でき、批判的評価を習得するように研鑽する。最終的には、医療の臨床現場の中で、臨床工学技士という個々のまた、集団としてのプロフェッショナル性を確立する。

授業計画 (レポートの課題)

第1回レポート課題

指定の英文論文を、抄読し、臓器機能代行についてまとめ、検討した結果を提出。

第2回レポート課題

ひとつの主要臓器の機能代行が、QOLにあたるインパクトについて、英文論文を参考に検討して、指定論文中的方法、結果の導入について評価し検討した結果を提出。

第3回レポート課題

主要臓器障害とリンクした機能代行が、個人、家族、社会、医療経済にあたるインパクトについて、英文論文を方法、結果を精読して、考察の部分について評価し検討した結果を提出。

テキスト

特にありません。

参考書・参考資料等

適宜、指定した論文を提示します。

学生に対する評価

3回のレポートに合格し、科目修了試験において評価する

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健医療技術学演習Ⅳ（感染制御・治療学）	渡辺 渡	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標（G10）

「保健医療技術特論Ⅳ」で得た知識に基づいて、医療機器における感染リスク低減のための対策を提案して考察する。また感染症治療薬について最新の情報を題材にして議論する。そしてこれらの演習を通して、感染症対策における医療従事者の中心となって活躍できるようになることを目的とする。

到達目標（SBOs）

- 1) 院内感染症対策の概略を説明できる。
- 2) 医療機器における感染リスクの低減に必要な防御具や消毒薬の適正な選択と使用が実践できる。
- 3) 院内感染症対策に使用されるワクチンや治療薬についてその特性を説明できる。
- 4) 院内感染対策に関する最新の情報を入手して活用できる。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

SBOs: 1)

各自の体験や環境に基づいて、最も関心のある院内感染症に対する対策法を提案して記述する。

第2回レポート課題

SBOs: 1)～2)

医療機器の中から最も関心がある機器（装置）を選び、感染リスク低減に必要な防御具や消毒薬を提案して記述する。

第3回レポート課題

SBOs: 1)～4)

注目すべき院内感染症対策に使用されるワクチンあるいは治療薬を海外の報告（英文報）より一つ選び、その要点を記述する。

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

必要に応じて紹介する。

学生に対する評価

3回のレポートに合格し、科目修了試験において評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健医療技術学演習Ⅴ（細胞生理生化学）	西片 一郎	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

生理生化学は、本来、生体のすべての機能とそのメカニズムについて、統合的な解明を目指す学問である。その結果、臨床医学・医療における「ゴールドスタンダード」として、「正常とは何か」を問う学問体系という位置付けにほかならない。本講義では、討議を含め、「生体における恒常性の維持（ホメオスタシス）が細胞レベルでの動的平衡に支えられている」という事実を皮切りとして、細胞レベルでの「正常とは何か」という中心的議題を掘り下げて行くことから、「細胞」について、学習する。

到達目標 (SBOs)

- (1) 「生体におけるホメオスタシスが細胞レベルでの動的平衡に支えられている」事例・神経応答について、具体的に説明ができる。
- (2) 「生体におけるホメオスタシスが細胞レベルでの動的平衡に支えられている」事例・免疫応答について、具体的に説明ができる。
- (3) 「生体におけるホメオスタシスが細胞レベルでの動的平衡に支えられている」事例・内分泌応答について、具体的に説明ができる。
- (4) ホメオスタシスを支えるこれらの働きに関する理解を深め、「生体における正常」と「細胞における正常」との関係につき、持論を展開できる。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

「生体におけるホメオスタシスが細胞レベルでの動的平衡に支えられている」事例・神経応答について、具体例を幾つか掲げ、基本概念と存在様式の意義を述べ、「生体における正常」と「細胞における正常」との関係につき、持論を、科学的根拠に基づき、展開せよ。

第2回レポート課題

「生体におけるホメオスタシスが細胞レベルでの動的平衡に支えられている」事例・免疫応答について、具体例を幾つか掲げ、基本概念と存在様式の意義を述べ、「生体における正常」と「細胞における正常」との関係につき、持論を、科学的根拠に基づき、展開せよ。

第3回レポート課題

「生体におけるホメオスタシスが細胞レベルでの動的平衡に支えられている」事例・内分泌応答について、具体例を幾つか掲げ、基本概念と存在様式の意義を述べ、「生体における正常」と「細胞における正常」との関係につき、持論を、科学的根拠に基づき、展開せよ。

テキスト

- (1) Molecular Biology of the Cell 6th Edition (6E) (英語) [ただし、改訂があれば、最新刊に変更]
- (2) Molecular Biology of the Cell 6E - The Problems Book (英語) [ただし、改訂があれば、最新刊に変更]

参考書・参考資料等

参考書・参考資料等について、特別な限定はない。
必要となれば、PDF ファイルもしくは紙媒体で、こちらから提供する。

学生に対する評価

3回のレポートに合格し、科目修了試験において評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健医療技術学演習Ⅴ（分子細胞病理学）	宮本 朋幸	4	T	選択

講義や研究の概要・一般目標（G10）

近年、がん治療の新たな標的としてがん幹細胞が注目されている。がん幹細胞はがん組織においてがん細胞の供給源として機能していると考えられているが、詳細な生物学的特性は明らかとなっていない。そこで、がんもしくはがん幹細胞に関する外国文献を検索し、がん幹細胞研究に必要な実験手技を学ぶとともに、最新の知見を得る。

到達目標（SBOs）

- 1) 一般的な幹細胞及びがん幹細胞の特性を理解する。
- 2) がん幹細胞研究に必要な実験手法・原理を理解する。
- 3) 各臓器におけるがん幹細胞の特性の違いを理解する。

授業計画（レポートの課題）

第1回レポート課題

指定論文を読んで内容をまとめる。

第2回レポート課題

指定論文を読んで内容をまとめる。

第3回レポート課題

指定論文を読んで内容をまとめる。

テキスト

原則的にありません。

参考書・参考資料等

必要に応じて参考文献を指示します。

学生に対する評価

3回のレポートに合格し、科目修了試験において評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健科学特別研究	明石 敏	6	TS	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

感染症の感染制御、病態、治療薬（創薬・開発・育薬）等に関する知識を修得する。また、この領域の研究を展開する際に必要な、研究のプロセス（仮説の設定、研究計画の策定、研究の実行、結論づけ、報告と発表）を理解できるとともに、そのプロセスの実行に必要なスキルの修得を目標とする。

到達目標 (SBOs)

1. 仮説の設定に必要な、国内外の情報調査をすることができる。
2. 仮説から研究課題を設定することができる。
3. 研究計画の策定ができる。
4. 研究を実行することができる。
5. 研究計画を変更することができる。
6. 研究の結論づけができる。
7. 研究結果の論文作成並びに発表ができる。

授業計画（論文作成の計画）

1年次

1. 仮説（研究課題）の設定
情報調査（国内外）を行い、研究課題を設定する。
2. 研究計画の策定
3. 研究の実行
4. 研究の中間結果の解釈、中間報告並びに研究計画の修正・変更

2年次

1. 研究の継続実行
2. 研究結果の解析・解釈、結論づけ
3. 論文の作成

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

特に指定しない。

学生に対する評価

研究の取り組み方および提出論文により評価を行う。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健科学特別研究	池脇 信直	6	TS	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

ヒト白血球の血液型である human leukocyte antigen (HLA) は、第 6 染色体の短腕に位置する HLA 遺伝子産物で、ヒトの免疫応答や制御に深く関わっている。また、臓器移植を成功させるためには HLA を一致させる必要がある。本研究では、HLA の特徴、HLA と病気との関係、保健科学および生命医科学における HLA の応用と将来を学習する。さらに、HLA 研究と水素医療についても考察する。

到達目標 (SBOs)

1. HLAの特徴を理解できる。
2. HLAの最新臨床検査法を理解できる。
3. HLAと病気との関係を理解できる。
4. HLAを保健科学・生命医科学領域で応用できる。
5. HLAの研究と水素医療を考察できる。
6. HLAの将来と課題を考察できる。

授業計画 (論文作成の計画)

1 年次

1. 保健科学研究、特にHLA研究の目的と意義、歴史的な発展について理解できるようにする。
2. HLA研究に関連する文献検索の方法を知り、実際にその情報を利用できるようにする。
3. HLA研究をデザインし、自ら研究を進める際の基盤ができるようにする。
4. HLA研究における研究計画書の作成とそのプロセスを理解できるようにする。

2 年次

1. HLA研究の論文をクリティークする能力を養うことができるようにする。
2. HLA研究の量的・質的な研究に対して基礎的な水準をクリティークできるようにする。
3. HLA研究を発表、論文化するための方法を理解できるようにする。
4. HLA研究を通して保健科学特別研究の水準で必要とされる知識・技能を高めることができるようにする。

テキスト

テキストは原則的にありませんので下記の参考書を利用して下さい。

参考書・参考資料等

- | | |
|--|---------------------------------|
| 1. 標準臨床検査医学 | (医学書院) |
| 2. 遺伝子診断入門 | (羊土社) |
| 3. 人間の遺伝子ー ヒトゲノム計画のめざすもの | (岩波科学ライブラリー) |
| 4. 免疫学イラストレイテッド | (南江堂) |
| 5. HLA領域のゲノムシーケンスと疾患感受性候補遺伝子の探索 | (現代医療) |
| 6. ゲノム多型性と機能解析ーMHC多型と疾患感受性 | (Molecular Medicine) |
| 7. 水素吸入健康法 | (幻冬舎) |
| 8. Progress in Basic and Clinical Immunology | (Plenum Publishing Corporation) |

学生に対する評価

スクーリングの参加および提出物を考慮し評価します。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健科学特別研究	梅木 一美	6	TS	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

ヒトT細胞白血病ウイルス1 (HTLV-1)は成人T細胞白血病(ATL)などの原因ウイルスであり、感染細胞にはプロウイルスが組み込まれている。本邦でも九州は HTLV-1 の高侵淫地域であり、その対策の重要性が認識されている。また、メルケル細胞がん(MCC)の多くではメルケル細胞ポリオーマウイルス(MCPyV)のプロウイルスが組み込まれ、発がんに関わっていることが知られている。本研究では、発がんに関わるプロウイルスの感染症の特徴、診断法の開発・改良、感染、発がんのメカニズムについて学習し、保健科学および生命医科学的な取り組みを考察する。

到達目標 (SBOs)

- (1) 発がんに関わるプロウイルスの特徴、遺伝子構造、疫学を理解できる。
- (2) 発がん関連ウイルスとその関連疾患との関係を理解できる。
- (3) 発がんに関わるプロウイルスのゲノム構造とその機能を理解できる。
- (4) プロウイルスの解析法を理解できる。
- (5) プロウイルスの研究と臨床応用を考察できる。
- (6) 発がんに関わるプロウイルスの課題を考察できる。

授業計画 (論文作成の計画)

1年次

- (1) 発がんに関わるプロウイルス研究の目的と意義、現在までの研究経過について理解できる。
- (2) 関連する研究成果の検索方法を習得し、その情報を利用できるようにする。
- (3) 研究を自らデザインし、研究を遂行する準備ができるようにする。
- (4) 研究の研究手順を考察し、具体的計画を作成できるようにする。

2年次

- (1) 発がんに関わるプロウイルスに関する論文を評価できるようにする。
- (2) これらの論文に対して自らデザインした研究計画の位置付けができるようにする。
- (3) 研究を発表し論文化するための方法と手順を立案できるようにする。
- (4) 自らデザインした研究について考察し論文としてまとめる。
- (5) 研究から得られた知識と技術を基に保健科学特別研究に必要なとされる能力を高めることができるようにする。

テキスト

テキストは特にありません。下記の参考書を利用してください。

参考書・参考資料等

ヒトT細胞白血病ウイルスI型 HTLV-1と疾患	(文光堂)
Two decades of adult T-cell leukemia and HTLV-I research	(Karger)
ATL/HTLV-1研究の最新の進展	(血液内科 Vol. 68 No. 1)

学生に対する評価

スクーリングの参加および提出物を考慮し評価します。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健科学特別研究	鬼塚 信	6	TS	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

この科目は修士論文作成に必要なすべての過程を含むものであり、研究テーマおよび研究方法の具体化とその実践を通して、研究者としての基本的態度を形成するため研究過程全般に関する基礎的知識と方法を修得する。

- 1年目は、研究テーマと仮説の設定、研究計画の作成、予備研究の実施、
 - 2年次には、本研究の実施、データ分析、論文の執筆、プレゼンテーションの準備を行う。
- 修士論文の作成の過程で得られたデータに関し、学会発表および学術誌の投稿にも挑戦する。

到達目標 (SBOs)

1. 先行研究を踏まえ、仮説を立てることができる。
2. 研究計画を作成することができる。
3. 予備研究、本研究を実施することができる。
4. データを分析し、結果を整理し、考察することができる。
5. 論文を形式に則り、執筆することができる。
6. プレゼンテーションすることができる。

授業計画 (論文作成の計画)

1年次

1. 学生自らの社会または臨床的問題意識の明確化と、キーワードの選出
2. 先行研究のレビューと研究的課題の具体化
3. テーマ、目的、方法の決定
4. 研究スケジュールの決定
5. 予備研究と、方法の修正、分析の視点の明確化

2年次

6. データ収集と解析
7. メインデータの作成と考察の観点の決定
8. 執筆スケジュールの詳細の決定
9. 論文掲載の図表と文章の作成(方法→結果→考察→序論→今後の課題)
10. 論文の校正
11. プレゼンテーション資料作成

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

特に指定しない。

学生に対する評価

スクーリングの参加状況および提出物を考慮して評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健科学特別研究	川野 純一	6	TS	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

本科目では、学生が研究の立案、データの収集と処理、論文作成の一連の過程を実際に行うことにより、科学的な姿勢を培うことを目的とする。研究課題は、学生自身の職場等における課題の中から選び、そこで得られるデータをもとに、科学的に意味のある結論を導き出す方法を学ぶ。

到達目標 (SBOs)

研究課題を自分自身で見つけ出すことができ、その研究で得られたデータから科学的に意味のある結論を導き出すことができる。

授業計画 (論文作成の計画)

1年次

1. 関連文献の収集とレビュー
2. 研究課題の絞り込み、仮説の設定
3. 研究プロトコルの作成
4. データ収集開始
5. 収集データの処理と、研究プロトコルや研究仮説の見直し

2年次

1. 本格的なデータの収集と処理
2. 研究中間発表
3. 論文作成

テキスト

指定しない。

参考書・参考資料等

指定しない。

学生に対する評価

スクーリングの参加及び各提出物を考慮し評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健科学特別研究	倉内 紀子	6	TS	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

小児および成人・高齢期の聴覚障害に関連した研究について、修士論文作成の指導を行う。仮説・検証のプロセスに基づく科学的臨床および臨床研究の視点と方法論を養うことをねらいとする。

原則として、1年次には、研究テーマの設定、研究計画の作成、予備研究の実施、研究計画の修正、2年次には、本研究の実施、データの分析、論文の執筆、プレゼンテーションの準備の手順で指導をすすめる。

修士論文の内容に関する、関連学会への発表および学術誌への投稿についても、指導・支援を行う。

到達目標 (SBOs)

1. 先行研究のレビューにより、問題の背景を明らかにすることができる。
2. 研究計画を作成し、予備研究を実施することができる。
3. 研究計画を修正した上で、本研究を実施することができる。
4. データを分析し、結果を整理することができる。
5. 結果に考察を加え、論文を執筆することができる。
6. プレゼンテーションの資料を作成し、発表することができる。

授業計画 (論文作成の計画)

1年次

概ね以下の流れで課題提出を求めるが、研究テーマや進捗状況によって個別に対応する。

1. 先行研究のレビューと研究計画の作成
2. 予備研究の実施と結果の報告
3. 研究計画の修正

2年次

1. 本研究の実施と結果の報告
2. 初稿論文の提出
3. 第2稿論文の提出
4. 最終論文の提出
5. プレゼンテーション資料の提出

テキスト

指定しない。

参考書・参考資料等

- ・Hulley Stephen B. 他：医学的研究のデザイン第4版。
メディカルサイエンス・インターナショナル，2014年

学生に対する評価

スクーリングの参加状況および提出物を考慮して評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健科学特別研究	近藤 照義	6	TS	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

ラットやマウスなどの実験動物を用いて腎臓の疾患モデルを作製し、疾患の原因究明や治療法の開発などの基礎医学的研究を行う。動物実験は、原則として本学の春季・夏季休業の期間に本学において集中的に行う。

到達目標 (SBOs)

1. 実験計画の立て方を修得する。
2. 実験動物を用いた各種の研究手法を習得する。
3. 文献収集の仕方を修得する。
4. 論文作成の仕方を修得する。

授業計画 (論文作成の計画)

1年次

- 課題1. 和文だけでなく英文の雑誌や単行本などの文献を収集・解読し、英文和訳の力をつけながら研究テーマを決める。
- 課題2. データの収集を開始する。
- 課題3. データの中間解析を行い、不足しているデータはさらに補充する。

2年次

- 課題1. 論文作成を開始する。
- 課題2. 論文の校正を行う。
- 課題3. 修士論文発表会用のスライドと原稿を作成する。

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

- ・急性腎不全・AKIを理解する 菱田明 東京医学社
- ・CKDのサイエンス—基礎と臨床— 眞野博史
- ・AKIのすべて 基礎から臨床までの最新知見 和田隆志、古市健吾

学生に対する評価

スクーリングの参加及び各提出物を考慮し評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健科学特別研究	清水 慶久	6	TS	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

アロマセラピーは、嗅覚を通じて心地良い香り信号を大脳辺縁系から視床下部に伝え、自律神経バランスを整える植物芳香療法で、ホスピス・緩和ケア領域や高齢者の認知症予防で応用されている。しかし従来、アロマの嗅覚反応は感覚的にとらえられ、その有効性に関する科学的根拠が不明確で、実施法も最適化されているとは言えない。

本研究では、科学的根拠に基づいた保健学を実践・発展させていく上で不可欠な未解明の“エビデンス”を探究・蓄積できる能力を養うとともに、“エビデンス”の探究に向けて、学際的連携や多専門職による職種を越えた協働・研究を展開し、自らの専門性を深化・発展させることを目的とする。

到達目標 (SBOs)

- 1) 高い倫理観に基づいた研究活動を実践することができる。
- 2) 論理的思考に基づいた研究計画の立案と研究成果の解釈ができる。
- 3) 生命科学全体をバランスよく俯瞰し、かつ、専門分野の高度化を目指して時代に即応する能力を養う。
- 4) 医学・医療分野の研究活動あるいは専門性の高い業務活動を通して地域社会と世界の保健・医療・福祉に貢献する能力を養う。

授業計画 (論文作成の計画)

1年次

- 1) 研究テーマの設定。
- 2) 研究テーマに関する文献の検索ならびに収集。
- 3) 研究計画書に基づく予備実験の開始。
- 4) 研究計画の修正ならびに本実験の開始。
- 5) 研究成果の中間報告。

2年次

- 6) 最終研究成果発表のための追加実験ならびにデータ解析。
 - 7) 関連学会（地方会、例会などは除く）での発表。
 - 8) 論文作成の準備。
 - 9) 纏め上げた論文に関しては、履修生が中心的に学術活動する学会誌に投稿するものとする。
- ※ できれば、Accept されるのが理想であるが、少なくとも初稿投稿は目指すものとする。

テキスト

特に指定しない(適時指示します)。

参考書・参考資料等

適時、論文指定を行う。

学生に対する評価

研究に対する取り組みの姿勢、ならびに研究成果（論文）で評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健科学特別研究	園田 徹	6	TS	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

小児の染色体異常、奇形症候群、精神遅滞の診断、成因、養育、訓練、教育などに関して研究テーマを自由に設定できる。

到達目標 (SBOs)

本科目により、研究テーマの設定、テーマに沿った文献の収集と整理、研究計画の作成、データの収集と追加・解析、論文の作成、口頭発表ができるようになる。

授業計画 (論文作成の計画)

1年次

- ・研究テーマの設定
- ・研究テーマにそった文献の収集と整理
- ・研究計画の作成
- ・研究の開始 (データの収集)
- ・研究計画の修正 (データの追加)

2年次

- ・データの解析
- ・中間発表会
- ・論文の作成
- ・口頭発表会

テキスト

特にありません。

参考書・参考資料等

1. 発達保健学特論 (遺伝学) で示した参考書
2. 発達障害の臨床・中根 晃・金剛出版・1999

学生に対する評価

スクーリングへの参加、最終論文とそのプレゼンテーションで評価します。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健科学特別研究	竹澤 真吾	6	TS	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

血液浄化に関する研究を行い、修士論文として完成させることを目的とする。研究テーマは各自の環境を考慮して決定する。

到達目標 (SBOs)

1年次：文献調査を中心とし、研究のバックグラウンド、位置付けを明確にする。

後半はデータ採取等についても着手する。

2年次：実験等によるデータ採取を行って論文を作成、学会誌への投稿、学会での発表を目標とする。

本研究では血液浄化領域における基本的な研究方法を身につけ、修士取得後は本領域での学術研究が独自に行えるよう指導する。学術評価の高い論文は国際学会での発表、論文投稿も行う。

授業計画 (論文作成の計画)

1年次

1年次

第1回修士論文計画レポート：論文概要の提出、問題点の抽出、基本方針決定を行う。

第2回修士論文計画レポート：国内における既往研究の文献調査を行う。

第3回修士論文計画レポート：海外での既往研究の文献調査を行う。

第4回修士論文計画レポート：論文の骨子作成、研究方針の決定を行う。

第5回修士論文計画レポート：実験系等に関する検討を行う。

2年次

2年次

第6回修士論文計画レポート：実験等によるデータ採取を行い、内容を検討する。

第7回修士論文計画レポート：第6回の結果をもとに方法等の検討を行い、データを採取する。

第8回修士論文計画レポート：得られた結果をもとに投稿論文あるいは学会発表を検討する。

第9回修士論文計画レポート：修士論文のドラフトを完成させる。

第10回修士論文計画レポート：修士論文最終調整を行い、論文を完成させる。

テキスト

参考書・参考資料等

学生に対する評価

スクーリングの参加および各提出物を考慮し評価。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健科学特別研究	立石 修康	6	TS	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

※概要

筋骨格系の運動および動作・行為分析に関する研究の実践を通して、研究手法を体系的に修得することを目的とする。

※GIO

学習者は、研究テーマの設定から、研究デザインの立案、データ収集、データの整理と分析、論文執筆とプレゼンテーションを実践し、研究活動の枠組みが形成できる。

到達目標 (SBOs)

- 1) 研究テーマの設定と文献レビューができる
- 2) 研究プロトコルと倫理規定に則った実験趣意書および同意書等が作成できる
- 3) パイロットスタディーの実施とプロトコルの修正ができる
- 4) データ収集ができる
- 5) データの整理と解釈ができる
- 6) 論文執筆とプレゼンテーション作成ができる

授業計画 (論文作成の計画)

1年次

1. 研究テーマの設定と文献レビュー
2. 実験デザインの立案
3. 研究プロトコルと、倫理規定に則った実験趣意書および同意書等の作成
4. パイロットスタディーの実施とプロトコルの修正

2年次

4. データ収集
5. データの整理と解釈
6. 論文執筆とプレゼンテーション作成

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

特に指定しない。

学生に対する評価

論文とレポートおよびスクリーニングの参加を考慮して総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健科学特別研究	戸畑 裕志	6	TS	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

医療において診断監視装置、治療機器などの医療機器の進歩はめざましいものがあり治療効果をあげていることは論を待たない。しかし、これらの機器を安全運用するため管理方法については本邦において進んでいるとは言いがたい。医療における安全対策の一環として医療機器の安全運用は重要であり以下のことを総合的におこなう必要がある。①使用目的に適合した安全な機器の選択、②使用環境（電気設備、医療ガス設備）の整備、③適切な使用方法の啓発活動、④機器の保守管理体制の確立、⑤医療機器（特にトラブル事例）に関する情報管理などである。本研究では医療機器の種類を問わず上記項目に関する安全対策についての研究を行うことができ、その結果として論文の形で報告書を作成する能力を習得する。

到達目標 (SBOs)

1. 研究テーマの設定方法が説明できる。
2. 研究の進め方を習得する。
3. 研究結果について客観的な評価を習得する。
4. 各自が所属する学会での発表ができる。
5. 研究報告書としての論文を作成できる。
6. 各自の所属学会へ原著論文として投稿できる。

授業計画（論文作成の計画）

1年次

- ・ 各自の研究テーマの設定
- ・ 予備研究の開始
- ・ 研究テーマに関連する文献の収集（検索）
- ・ 予備実験開始
- ・ 予備実験の結果をふまえ研究テーマの修正
- ・ 研究開始（実験開始）
- ・ 研究中間報告

2年次

- ・ 研究結果の報告
 - ・ 関連学会への発表（1回以上）
 - ・ 追加実験の検討
 - ・ 論文の作成
 - ・ 論文の校正
 - ・ 論文提出
- * 研究内容は履修生が各自所属する学術団体へ原著として投稿する。

テキスト

なし

参考書・参考資料等

各自（履修生）の研究に関連する学術団体の学会誌

学生に対する評価

研究の取り組み方および結果（論文）により評価をおこなう。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健科学特別研究	中村 真理子	6	TS	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

構音障害，ならびに嚥下障害と口腔機能との関係に関する研究について修士論文作成の指導を行う。本科目は研究テーマの設定，計画の立案，結果分析，論文作成，口頭発表を通じて研究手法，論文作成技術を習得することを目的とする。

到達目標 (SBOs)

研究テーマの設定，計画の立案，結果分析，論文作成，口頭発表ができるようになること。

授業計画 (論文作成の計画)

1年次

1. 学生自らテーマを明確にするとともに，キーワードを見出す。
2. 先行研究の文献検索
3. テーマ，目的，方法，スケジュールの決定
4. データ収集
5. データ分析

2年次

1. 論文作成
2. プレゼンテーション用試料作成

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

浅井隆著「いまさら誰にも聞けない医学統計の基礎のキソ1～3」アトムス
 佐藤雅昭著「なぜあなたは論文が書けないのか」メディカルレビュー社
 佐藤雅昭著「なぜあなたの研究は進まないのか？」メディカルレビュー社

学生に対する評価

発表論文とプレゼンテーションの内容で評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健科学特別研究	西片 一郎	6	TS	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

百薬の長ともよばれるお酒だが、その主成分・アルコールは、肝臓にとって、単に、解毒の対象でしかない。むしろ、アルコール性肝障害やアルコール中毒（精神疾患）など飲酒者個人の健康上の問題に止まらず、飲酒運転事故、大学生の急性アルコール中毒死、アルコール・ハラスメントなど、多くの社会問題をも発生させている。このような個人的・社会不適合行動は、全てアルコール代謝に関する知識の欠如が元凶であると考えられる。本研究では、アルコール代謝に関する最新知識の情報収集を行い、理解を深め、討議・考察を重ねることで、改めて、現状にフォーカスした問題点を洗い出し、その解決策にまで言及したい。

到達目標 (SBOs)

- (1) アルコール代謝を理解し、概要を説明できる。
- (2) アルコール代謝に関する、現在に至るまでの遺伝子検査法を理解し、概要を説明できる。
- (3) アルコール代謝と病気との関係を調べた疫学調査について理解し、概要を説明できる。
- (4) アルコール代謝と病気との関係を調べた動物実験について理解し、概要を説明できる。
- (5) これまでのアルコール代謝に関する研究の問題点とその解決策、将来の課題について、概ね考察できる。

授業計画 (論文作成の計画)

1年次

- (1) 保健科学研究、特にアルコール代謝研究の目的と意義、歴史的な発展について理解できるようになる。
- (2) アルコール代謝研究に関連する文献検索の方法を知り、実際にその情報を利用できるようになる。
- (3) アルコール代謝研究を自らデザインし、研究を進める際の基盤ができるようになる。
- (4) アルコール代謝研究における研究計画書の作成とそのプロセスを理解できるようになる。

2年次

- (1) アルコール代謝研究の論文について、要旨をまとめ、文章化する能力を養うことができるようになる。
- (2) アルコール代謝研究の量的・質的な研究に対して問題点の抽出とその対策が勘案できるようになる。
- (3) アルコール代謝研究を発表・論文化するための方法を理解できるようにする。
- (4) アルコール代謝研究を通じて、保健科学特別研究の水準に必要な知識・技能を高めることができるようになる。

テキスト

テキストは、原則的にありませんので、下記の参考書も、利用して下さい。

参考書・参考資料等

ストライヤー 生化学・第8版 (2018, 東京化学同人)
 ラインバーグ がんの生物学・第2版 (2017, 南江堂)
 病気がみえる・消化器・第5版 (2016, メディック・メディア)
 生命医科学 データベース・ウェブサイト (2018, メディカル・サイエンス・インターナショナル)
 遺伝子診療ガイドブック (2018, メディカル・サイエンス・インターナショナル)

また、インターネット上から容易に入手可能な以下の論文も有用なので、参考にされたい。

松本明子・アルデヒド脱水素酵素2 (ALDH2) の構造・機能の基礎とALDH2 遺伝子多型の重要性 (2016, 日衛誌)
 松本明子・アルデヒド脱水素酵素2 (ALDH2) 遺伝子多型の予防医学的重要性 (2018, 日衛誌)
 常吉俊宏・口腔粘膜剥離細胞からのアルコール耐性遺伝子型判別実験 -学生実験への適用- (2015, 静岡理工科大学紀要)

学生に対する評価

スクリーンの参加および提出物を考慮し評価します。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健科学特別研究	沼田 公子	6	TS	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

自身の業務に関連する興味のあるテーマを特別研究の課題とする。
研究を通じて研究手法・分析方法などの論文作成技術を習得することを目的とする。

到達目標 (SBOs)

1. 研究テーマに関連する文献を通じて研究テーマに関連する知識を深めることができる。
2. 自己の研究について、研究を進めた場合の仮説を立てることができる。
3. 科学的思考に基づく研究の計画を立てることができる。
4. 予備実験の結果から本実験に必要な条件を整えることができる。
5. 研究データの解析をすることができる。
6. 論理的思考に基づいた論文を作成することができる。
7. プレゼンテーション用のスライドを作成することができる。
8. プレゼンテーションを通じて自己の研究をその分野の専門外の人にも理解させることができる。

授業計画 (論文作成の計画)

1年次

- ・先行研究、関連文献の収集
- ・研究テーマの明確化
- ・研究計画書の立案
- ・予備実験・研究計画の再検討
- ・本実験データ収集

2年次

- ・データ解析
- ・中間発表、初稿作成
- ・論文作成、発表および投稿先の検討

テキスト

なるほど統計学とおどろき Excel 統計処理 (医学図書出版) ISBN : 978-4-87151-464-4

参考書・参考資料等

指定しない

学生に対する評価

スクーリングの参加および各提出物を考慮して評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健科学特別研究	原 修一	6	TS	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

研究の過程を通じて、科学的な視点を持ち、医療・保健・福祉の各領域の最先端にて活躍するためのスキルを習得できるようにする。

到達目標 (SBOs)

1. 研究に関連する先行文献を読み、そのレビューができる。
2. 仮説を立て、仮説を検証するための研究のデザインが確立できる。
3. 研究計画を基に、研究計画書が作成できる。
4. 予備研究としてデータを収集し、研究計画の修正ができる。
5. 研究における倫理的問題を理解し、配慮できる。
6. データ収集を行い、その結果を統計学的に分析・解釈できる。
7. 修士論文が完成・提出できる。
8. 修士論文に関するプレゼンテーションを実施できる。

授業計画 (論文作成の計画)

1年次

1. 先行研究に関する文献収集とレビュー
2. 研究対象の絞り込み
3. 仮設の設定、研究デザイン・分析方法の決定
4. 研究計画書の作成
5. 予備研究としてのデータ収集と研究計画の修正
 - ・上記の各研究課題について、その進捗状況をレポート・E-mail 等にて随時報告すること。

2年次

1. データ収集
2. データの統計学的解析と解釈
3. 論文執筆・完成
4. プレゼンテーション準備・実施
 - ・論文作成やプレゼンテーションに関する課題内容と締め切りについては、段階的に設定し、別途連絡する。

テキスト

福井次矢 (編) : 臨床研究マスターブック. 医学書院.

参考書・参考資料等

市原 清志(著) : バイオサイエンスの統計学—正しく活用するための実践理論. 南江堂.
 対馬 栄輝 (著) : 医療系研究論文の読み方・まとめ方. 東京図書.
 その他適宜提示する.

学生に対する評価

スクーリングの参加及び、修士論文等の各提出物を考慮し評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健科学特別研究	樋口 博之	6	TS	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

修士課程における研究論文の作成において、まず情報の収集能力が必要である。情報収集能力とは、どのような研究が行われ、何が明らかにされているのかを客観的に把握する能力を意味し、日本語論文だけでなく英語論文も含まれる。したがって、英語論文の読解力が必要となる。

次に、研究のデザインを計画し、研究を遂行しなければならない。科学分野の研究については、実験的研究とフィールド研究に分類することができる。実験的研究では基礎生理学を中心にヒトの生理学応答に関するメカニズムを解明する内容である。フィールド研究は行動医学やライフスタイルに関するものなどをテーマに横断的調査および縦断的（追跡）調査を主な内容とする。ただし、修士課程2年間で追跡調査できる内容は限られる。

研究テーマは、呼吸循環器系、エネルギー代謝に関する内容について指導を行う。ただし、応用生理学として、身体リハビリテーションの効果や機能回復訓練中の骨格筋の生理学的反応など運動療法に関する内容についても指導を行うことがある。

到達目標 (SBOs)

- ・ 先行研究をまとめ、目的を遂行するための研究計画を立てる
- ・ 研究計画に基づき、データ（情報）を収集・分析して、客観的なプレゼンテーションを行える

授業計画（論文作成の計画）

1年次

先行研究の把握

研究計画の作成

研究・調査の実施

研究結果と考察

研究計画の修正（追加実験を含む）

◎スクーリング：研究テーマに関連した英語論文の抄読。研究計画についてのプレゼンテーション。

2年次

研究のプレゼンテーション（Powerpointを使用）

研究論文の作成

◎スクーリング：中間発表、研究発表を中心とした予行演習。修士論文の作成。

テキスト

参考書・参考資料等

科学論文がスラスラ書けるパソコンのやさしい使い方

（日本コンピューターサイエンス学会監修、羊土社）

学生に対する評価

スクーリングの参加及び各提出物を考慮し評価。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健科学特別研究	松山 光生	6	TS	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

障害科学、リハビリテーション連携科学、臨床発達心理学に関して、下記の手順で、論文を纏める。論文を纏める過程では、研究の社会または臨床的意義を吟味し、データによる実証の方法論を学ぶ。

また、この科目では、できるだけ、論文で明らかにする変数を具体化し、絞った上で、データ収集の前に、各変数の関係に関する仮説を作ることを学習する。

1年目は、研究テーマと仮説の設定、研究計画の作成、予備研究の実施、2年次には、本研究の実施、データ分析、論文の執筆、プレゼンテーションの準備を行う。

修士論文の作成の過程で得られたデータに関し、学会発表および学術誌の投稿にも挑戦する。

到達目標 (SBOs)

1. 先行研究を踏まえ、仮説を立てることができる。
2. 研究計画を作成することができる。
3. 予備研究、本研究を実施することができる。
4. データを分析し、結果を整理し、考察することができる。
5. 論文を形式に則り、執筆することができる。
6. プレゼンテーションすることができる。

授業計画 (論文作成の計画)

1年次

1. 学生自らの社会または臨床的問題意識の明確化と、キーワードの選出
2. 先行研究のレビューと研究的課題の具体化
3. テーマ、目的、方法の決定
4. 研究スケジュールの決定
5. 予備研究と、方法の修正、分析の視点の明確化

2年次

6. データ収集と解析
7. メインデータの作成と考察の観点の決定
8. 執筆スケジュールの詳細の決定
9. 論文掲載の図表と文章の作成(方法→結果→考察→序論→今後の課題)
10. 論文の校正
11. プレゼンテーション資料作成

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

1. 臨床心理・精神医学のためのSPSSによる統計処理 著書 加藤 千恵子・石村 貞夫 東京図書
2005年 ISBN-4489007000
2. ユーザーのための教育・心理統計と実験計画法—方法の理解から論文の書き方まで
著書 田中 敏・山際 勇一郎 教育出版 1997年 ISBN-4316329006

学生に対する評価

スクーリングの参加状況および提出物を考慮して評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健科学特別研究	右田 平八	6	TS	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

臨床工学とは、生命に直接関与する医療機器の安全性や確実性を究極に高める学問であり、全ての治療に欠かせない臨床技術体系でもある。さらに臨床工学は広範な医療分野で必要不可欠となっている。本研究では、人の呼吸、循環、代謝を代行する装置器具を対象に臨床で生じた疑問や問題点を解決すべく、その具体的方法を策定することを目的にする。その目的遂行に必要な研究のデザイン、データ解析、考案、論文作成とプレゼンテーションのスキルを習得する。

到達目標 (SBOs)

1. 研究テーマの設定を行うことができる。
2. 研究テーマに関連する文献を収集し、論文の主旨について理解できる。
3. 研究のデザインを立案することができる。
4. 研究方法に基づき、調査や実験を行うことができる。
5. 得られたデータを適切な手法で解析することができる。
6. 得られた結果を客観的に評価できる。
7. 論文作成を行い、そのなかで科学的見地から自らの考えを述べるることができる。

授業計画 (論文作成の計画)

1年次

- ・ 研究テーマの設定
- ・ 関連文献の収集と先行研究の調査
- ・ 研究方法の立案と予備実験の実施
- ・ 予備実験の結果をもとに研究方法の再考
- ・ 本研究の開始
- ・ 1年次終了前に研究経過の報告

2年次

- ・ 研究結果の報告
- ・ 関連学会での発表
- ・ 追加実験の検討
- ・ 論文の作成
- ・ 論文の校正
- ・ 論文提出

* 研究内容は履修生が所属する学術団体雑誌へ投稿する。

テキスト

指定しない

参考書・参考資料等

履修生の研究に関連する学術団体雑誌等

学生に対する評価

研究に対する取り組み方、指定レポートの内容ならびに作成論文から総合的に評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健科学特別研究	三苦 純也	6	TS	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

癌の治療および再生医療発展のために、がん細胞、がん幹細胞、iPS 細胞、あるいはその他のテーマについての基礎的な研究を行う。

到達目標 (SBOs)

- 1) 研究テーマに関する文献の収集ができる。
- 2) 研究テーマに沿って適切に研究計画を立てることができる。
- 3) 研究計画に従い、実験を進めることができる。
- 4) 研究結果を解析し、解釈することができる。
- 5) 研究結果をもとに論文を作成できる。

授業計画 (論文作成の計画)

1 年次

研究テーマを設定し、研究計画をたて、実験を開始する。

2 年次

引き続き実験を行いながらデータを解釈し、論文を作成する。

テキスト

特に指定しない。

参考書・参考資料等

随時紹介する。

学生に対する評価

研究論文で評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健科学特別研究	宮本 朋幸	6	TS	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

近年増加している悪性腫瘍（がん）の診断法には腫瘍マーカー、画像診断などがあるが、最終診断として用いられるのは病理学的検査である。病理学的検査では構造異型・細胞異型を形態学的に検出し、癌の組織型や悪性度が診断されるが、同一腫瘍内の個々の細胞形態と生物学的特性の関係には未だ不明な点が多い。そこで本研究では細胞形態と遺伝子・蛋白質発現を含む生物学的特性について解析し、質的診断を可能とする形態学的検査開発の基盤とする。

到達目標 (SBOs)

- 1) 各種がんの細胞形態を説明できる。
- 2) がんの生物学的特性解析法を説明できる。
- 3) がんの悪性度と遺伝子・蛋白質の関係を説明できる。
- 4) がんに関する英語論文を読み、理解できる。

授業計画（論文作成の計画）

1年次

- 1) がん診断・治療の問題点を理解する。
- 2) がん研究に関連する文献検索の方法を知り、実際にその情報を利用できるようにする。
- 3) がん研究に必要な実験手技を習得する。
- 4) がん研究をデザインし、自ら研究を進める際の基盤ができるようにする。

2年次

- 1) 臨床例と培養細胞を用いた場合の研究の差異を理解する。
- 2) 実験結果を考察し、必要な追実験をデザインできる。
- 3) 研究結果をプレゼンする為の方法を理解する。
- 4) 研究結果を論文化する為の方法を理解する。

テキスト

原則的にありません。

参考書・参考資料等

適宜指示します。

学生に対する評価

スクーリングの参加および提出物を考慮し評価します。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健科学特別研究	山本 隆一	6	TS	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

研究の概要：院生の職場における業務の中から、または日頃から特に関心があり、その問題を探究することにより保健科学領域において大きく貢献できると考えられることがらを、特別研究の課題とする。これまで学んできた理論構築法などを基礎として、リハビリテーション、分子生物学、病態生理・生化学または薬理学的観点から統計処理ができるデータを対象に研究をすすめる。

一般目標：院生の置かれた環境を配慮しつつ、生命科学に関する高い基礎学力を授け、質の高い論文を作成することによって、生涯にわたって最先端の医療現場に身を置くことが出来る能力を涵養する。

到達目標 (SBOs)

- 1) 学術論文の成り立ちを説明できる。
- 2) 研究の目的・意義および手法の妥当性を評価できる。
- 3) 適切なデータを収集できる。
- 4) 適切な統計学的検定方法を選択しデータを解析できる。
- 5) 文献データベースを活用し情報を取捨選択できる。
- 6) 自ら収集したデータを基に、論文を作成できる。
- 7) 研究の目的・意義を英語で表現できる。

授業計画 (論文作成の計画)

1年次

到達目標 1) 2) 3) 4) 5)

研究課題を明確にすると同時に、当初の実験計画から予測される種々データからのシミュレーションをおこない、計画した実験から論理的な結論が見いだせるのか検証する。この作業を繰り返してフィードバックをかけ、最終的な実験計画を立案する。この過程は、論理的な思考能力構築のために特に重視する。

2年次

到達目標 3) 4) 5) 6) 7)

実験計画に基づきデータ収集をおこない、7月には初稿を作成する。11月には、指摘された問題点を校正し論文を作成提出する。

テキスト

なるほど統計学とおどろき Excel 統計処理 改訂第8版

参考書・参考資料等

随時紹介

学生に対する評価

スクーリングの参加及び各提出物を考慮して評価する。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健科学特別研究	吉武 重徳	6	TS	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

受講生は、医学の一端を担う臨床工学技師として、実践のみでなく、科学的な視点から医療にアプローチしていく過程を学ぶ。情報収集には、研究がどのように行われ、何を導き出されているのかを、把握する上で、客観的に、正当な批判能力を養う。その過程で日本語論文のみでなく、英語論文の読解力を必要とし、これを吟味して、患者群に適切に当てはまるのかを検討する能力をマスターする。

到達目標 (SBOs)

特別研究では、大学院生が職場や臨床的環境において、実験的、臨床的研究をとりあげ、臨床工学的にアプローチした研究成果が得られるように指導する。

授業計画 (論文作成の計画)

1年次

研究の概要作成
 研究計画とデータ収集 (関連文献の収集とレビュー)
 研究計画の修正 (プロトコールや仮説の見直し)

2年次

中間報告原稿
 中間報告の整理・修正
 本論文の完成。発表および投稿先を検討する。

テキスト

特にありません。

参考書・参考資料等

随時、適切な論文を提示・紹介する。

学生に対する評価

スクーリングの参加および提出物を考慮して評価。

科目名	担当教員	単位	授業形態	必修選択
保健科学特別研究	渡辺 渡	6	TS	必修

講義や研究の概要・一般目標 (G10)

医療や保健の領域において有用な人材は、常に新しい知識を取得しようとする前向きな探求心と得た知識を論理的に整理して表現できる科学的なスキルが必要である。本研究では、感染症対策に関わるテーマを設定し、立案から結果のプレゼンテーションまで一貫して主体的に活動することにより、科学的なスキルを向上させることを目的とする。

到達目標 (SBOs)

- 1) 研究背景を理解した上で研究テーマが立案できる。
- 2) 研究に必要な最新の情報を活用できる。
- 3) 論理的な思考の下、文献調査や実験を進めることができる。
- 4) 得られた結果を分かり易くプレゼンテーションできる。
- 5) 得られた結果を論文としてまとめることができる。

授業計画 (論文作成の計画)

1年次

SBOs 1)～3)

研究テーマの設定を行い、文献調査や実験を進める。

2年次

SBOs 3)～5)

文献調査や実験を行い、結果を発表し、論文としてまとめる。

テキスト

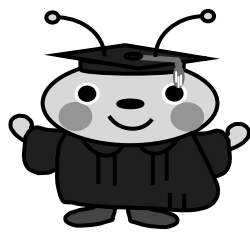
特に指定しない。

参考書・参考資料等

必要に応じて紹介する。

学生に対する評価

スクーリングの参加や提出物、発表態度や執筆論文を総合的に考慮して評価する。



Together